

実施報告書



Heart of Tajimi
-たじみ市民討議会2011-

2011年 8月



社団法人 多治見青年会議所

目次

はじめに	2
概要	3
I 報告書の位置づけ	
II 実施に関する協定の締結	
III たじみ市民討議会の目的	
IV たじみ市民討議会の実施	
V 市民提案の内容	
第1章 総論	6
I 市民討議会とは	
II プラシーノクスツェレとは	
III 多治見市における市民参加推進の取り組み	
IV たじみ市民討議会実施に関する協定書	
V たじみ市民討議会当日の流れ	
第2章 話し合いの結果と市民からの提案	16
I 市民からの提案	
II テーマごとの話し合いシートの内容	
第3章 たじみ市民討議会の検証と評価	52
I たじみ市民討議会の有効性	
II たじみ市民討議会の手法の特徴	
III 開催準備から報告書提出までの記録	
IV 検証と評価	
第4章 展望	67
I たじみ市民討議会の展望	
II 今後の取り組みに対する情報提供	
アンケート	69
写真集	75
参考文献	79

はじめに

この報告書は、多治見市と社団法人多治見青年会議所が、たじみ市民討議会実施における協定書を結び、『支えあうまちづくり ～高めようタジミストの絆～』をテーマに実施した「H e a r t o f T a j i m iーたじみ市民討議会2011ー」の結果を集計・分析し、市民提言として多治見市に提出すること、さらに市民協働のまちづくりを推進していくにあたり、今後の展開を考慮しマニュアル化することを目的にまとめたものです。

今年で3年目となるこの「たじみ市民討議会」を実施するにあたり、本年2月、ボランティアスタッフ（昨年、一昨年市民討議会参加者）と社団法人多治見青年会議所・多治見の力推進委員会、市役所が中心となり「たじみ市民討議会実行委員会」を立ち上げ、討議会当日までに十数回に亘る実行委員会を開催し、準備、設営を致しました。

20歳以上の有権者を対象に完全無作為抽出により1000名の市民の皆様に参加依頼書を送付致しましたところ、59名の参加承諾があり、当日45名の方にご来場いただきました。市民の皆様の行政に対する意識の高さが伺えました。

また、本年のテーマ『支えあうまちづくり ～高めようタジミストの絆～』は、3月に起きた東日本大震災を機に住民自治の重要性を再確認し、市に対する要望・依頼だけでなく、我々市民が市民レベルで出来ることを真剣に考えて行こうというところから発したものでした。

2011年6月18日、19日の2日間で多治見市産業文化センターにて実施され、4つの討議テーマに対して、熱心な討議が行われ、多くの意見や考えを聞くことができました。市民の皆様は決して市政に対して無関心なのではなく、機会があれば市民参加をしたいと考えていることが分かりました。

この報告書を市民提言として多治見市に提出するにあたり、この内容を多治見市の施策に反映していただくことを参加市民に代わりましてお願いいたします。

また来年度以降、多くの市民の皆様がこの市民討議会の運営に携わって頂き、実りある討議会が発展、継続されることを祈念いたします。

2 0 1 1 年 8 月
社団法人 多治見青年会議所
多治見の力推進委員会

概要

I. 報告書の位置づけ

本報告書は、社団法人多治見青年会議所と多治見市が締結した「Heart of Tajimi - たじみ市民討議会 2011 -」（以下、たじみ市民討議会という。）の実施に関する協定書にもとづき、社団法人多治見青年会議所と多治見市が共催で「たじみ市民討議会」を実施し、そこで行われた話し合いの結果を市民提言として多治見市に施策への反映を求めるとともに、市民討議会という新たな市民参加の取り組みについて検証・評価したものである。

本報告書は、上記協定書に基づき社団法人多治見青年会議所が多治見市に提出するものである。

II. 実施に関する協定の締結

「たじみ市民討議会」は、2011年5月に締結された実施に関する協定書にもとづき実施された。実施に関する協定書では、たじみ市民討議会の実施およびその手法の効果の検証・評価に関し、社団法人多治見青年会議所と多治見市との間の関係や役割分担、相互協力の内容などを定めることとした。

III. たじみ市民討議会の目的

多治見市では、市民参加の手法として、「地区懇談会」や「パブリックコメント」など、数々の取り組みを行ってきた。今回はドイツの市民参加の手法である「プラーヌクスツェレ」を参考にして、たじみ市民討議会を実施した。

その目的は、これまで行政に声を届けるきっかけが少なかったサイレントマジョリティーと呼ばれる一般の市民の市政への参加を促し、その声を行政に届け、まちづくりにいかすことで、市民の行政への参加意識の高揚と、行政と協働のまちづくりを推進することである。

IV. たじみ市民討議会の実施

たじみ市民討議会は、2011年6月18日（土）・19日（日）の2日間にわたり多治見市産業文化センター5F大ホールにおいて開催された。

参加者は、無作為抽出により20歳以上の市民1,000人に参加を呼びかける依頼書を送付し、依頼を承諾した市民59人を対象に行った。（当日参加者45人）なお、参加者には、謝礼を支払うこととした。

たじみ市民討議会の当日は、45人の参加者を得て、『支えあうまちづくり～高めようタジミ

ストの絆〜』をメインテーマとし、「地域で行う防災について考える」、「障がい者、高齢者等を地域で支えるためには?」、「安心して子育てを行える思いやりのあるまちにするためには?」、「生活環境をよりよくするために、私たちに何ができるのか?」の4つの個別テーマでそれぞれ話し合いを行った。話し合いにあたっては、7グループ（1グループ6人～7人）に分かれて、話し合いごとにメンバーを入れ替えることとした。毎回、グループごとに3つ以内に意見をまとめ、意見の傾向を見るため、その意見に対して、参加者が投票を行うこととした。

V. 市民提言の内容

たじみ市民討議会の話し合いの結果である市民提言は、次のとおりである。

1. 討議テーマ「地域で行う防災について考える」

【市民提言】

市民一人ひとりが防災に対する知識を充実させ、防災意識を高め地域防災に繋げていく事が重要である為、市民が主体的に関与し、意思決定できる防災システムの整備を求めます。

- ・個々の知識の充実及び意識を高める為に、学校教育における防災教育・訓練の強化を望みます。
- ・地域により細分化されたハザードマップの作成及び、防災情報の提供それに基づいた地域特性に適した防災訓練の徹底を望みます。
- ・住民同士の繋がりが重要である為、地域コミュニティ形成又は、活性化の機会の創出を望みます。

2. 討議テーマ「障がい者、高齢者等を地域で支えるためには?」

【市民提言】

障がい者・高齢者の方たち及びその家族が、孤立することなく安心して生活でき、自主的に活動できるよう地域全体で支える基盤整備を求めます。

- ・支援者の底上げを図る為に、ボランティア教育の充実及び、介護教育、資格取得の支援強化を望みます。
- ・やりがいを持って頂き、地域における繋がりを強める為にもシルバー人材が活躍できる基盤整備を望みます。
- ・障がい者、高齢者をコミュニティの中心に置き、交流の機会を増やすと共に、地域やまち全体で支える社会システム構築を望みます。

3. 討議テーマ「安心して子育てを行える思いやりのあるまちにするためには？」

【市民提言】

安心して子育てを行える思いやりのあるまちにするために、孤立しない子育ての仕組み作り、情報の提供、及び医療制度の充実を求めます。

- ・子育て世代と子育て経験者が集い会えるような、子育て憩い広場（仮称）の増設を望みます。
- ・地域コミュニティの強化、同じ境遇の親御さんの相互支援の機会を創出する為にも子供の会の整備及び推進を望みます。
- ・緑を増やすなど憩いの場所、又は交流の場所として、児童館の活性化、遊歩道や公園の整備などを望みます。
- ・子育て支援のための医療費免除期間の延長を望みます。

4. 討議テーマ「生活環境をよりよくするために、私たちに何ができるのか？」

【市民提言】

生活環境をよりよくするために、個人や地域単位で出来る活動を実施します。また市民と行政が一体となった政策を求めます。

- ・日本一暑いまちというイメージをポジティブに捉え、官民一体となった日本一エコなまちづくりを求めます。
- ・各交通機関との連携を取り、利便性を追求すると共に、自転車による移動を推進するなど自家用車に頼らない交通網の整備を望みます。
- ・たじみのシンボリックな存在である場所に記念樹や桜を植えるなど、市民の意向を反映させたり、記念樹の場所を提供するなど市民と行政の協働による緑化計画推進を望みます。

第1章 総論

I. 市民討議会とは

これまで市の方針や施策を決める場面において、行政が実施されてきた「市民の声を聞く仕組み」として、地区懇談会やパブリックコメントなどに取り組んでいます。しかしこれらに参加する市民は、それぞれの分野に興味をもち、時間的にも比較的余裕のある限られた市民の意見になる懸念もあります。社会全体の市民、無関心層やサイレントマジョリティー（物言わぬ多数派）といった市民の意見を取り込んだ、多治見市民の平均的な意見をいただき、「市民の声・社会の声」として行政にいかしていく仕組みです。

この市民討議会は、無作為に抽出した市民の方々に参加依頼書を出し、その中から参加の意思表示をいただいた方々に、テーマに沿って多治見市の課題について話し合いをしていただきます。討議の前に公正な情報提供を行った上で、小グループに分かれ討議いたします。そして、グループごとに意見を取りまとめ、そのグループごとの意見に対して全員で投票します。結果については多数意見だけでなく、少数意見を含めた全ての意見と得票数をとりまとめ、今後の行政に反映されるよう、「市民提言」として提言書を市に提出します。

◆市民討議会の特徴◆

1. 参加者の無作為抽出

住民基本台帳から無作為に抽出した市民の方々に参加依頼書を郵送し、参加希望者を募ります。

2. 参加者の有償性

無作為抽出により選ばれた参加者には、報酬を支給します。

3. 専門家による情報提供

討議（話し合い）の前に、行政担当者などから現状についての情報提供を行います。

4. 参加者が討議・意見集約

参加者がグループ別討議により意見を出し合い、意見集約・合意形成をします。

5. 討議結果のまとめ・公表

討議結果は市への提案書としてまとめ、その内容は市の広報誌やホームページなどで公表します。

II. プラヌクスツェレとは

プラヌクスツェレ（独：Planungszelle：計画細胞）は、ペーター・C・ディーネル（Peter C. Dienel）ドイツ・ヴパタール大学名誉教授により1970年代に考案された市民参加の手法である。ドイツでは、1990年のドイツ統一後、地方公共団体において住民投票制度が導入されていったことに伴い、直接民主主義に対する認識が高まった。このような潮流の中で、市民参加の手法の1つとしてプラヌクスツェレが注目された。現在では、スペインやオランダなどでも取り組みがなされている。

プラヌクスツェレは、行政機関がプラヌクスツェレで検討する内容を示して、大学等公平・中立的な実施機関に委託して行う。受託者である実施機関において、プログラムを作成し、プラヌクスツェレを実施する。参加者は、地域から無作為に選ばれた市民から募り、実施プログラムに沿って少人数で話し合いを行う。そこで出された意見を集約して広報を行うとともに、行政機関に答申し、市民の声をまちづくりに反映させる手法である。なお、参加者には、仕事として取り組んでもらうため、報酬を支払う。

この手法の最大の特徴は、今までの公募による市民会議と異なり、基本的に16歳以上の市民から「無作為抽出」により参加者を募ることである。このため、参加者は、限られた特定の人の集団や専門家ではなく、ほとんどの場合、テーマに関し直接の当事者ではない一般の市民である。また、男女比率、年齢や職業などの構成が、その地域の構成と同様の傾向を示すことになり、その意味において参加者はその地域の代表者であるといえる。

プラヌクスツェレにおいては、話し合いの数は4日間で16コマとし、参加者はコマごとに設定される個々のテーマに沿って、公平・中立な立場、または賛成、反対両方の立場による専門家等からの情報提供を受け、その後1グループ5人（通常5グループ25人で行う）で、参加者だけで話し合いを行う（情報提供を含め1コマ90分）とされる。話し合いは、特定の参加者の意見だけが反映されることのないよう、コマごとにメンバーを入れ替えて行う。

このような少人数による話し合いをコマごとにメンバーを入れ替えながら行うことで、他の参加者の意見を十分聞き、お互いの体験や視点を尊重しながら、合意形成を行うことが可能になる。このようにして得られたグループの意見に対して、全員で投票を行うが、話し合いと投票を経て得られた結論は、利権誘導や専門家の意見に偏った形にはならないものとなる。

他の市民参加の手法に比べてコストがかかる点と開催の準備や最終報告に時間がかかる点に問題があるものの、サイレントマジョリティーと呼ばれる一般の市民の声なき声を抽出できる方法として、きわめて有効であると評価できる。また、プラヌクスツェレの参加者が、開催後に地域社会に対する参画意識が非常に高まる点も評価できる。

Ⅲ. 多治見市における市民参加推進の取り組み

1. 制度の整備

(1) 多治見市市政基本条例を制定（平成19年1月1日施行）

市の最高規範としているこの条例で、市民の市政参加について次のように規定された。

- ①市民は主権者として市政に参加する権利があること
- ②多くの市民の参加機会を保障するため、多様な参加手法を用意しなければならないこと
- ③重要な計画の策定や見直し、条例などの制定や改廃、事業の選択や実施、政策評価には市民の参加を図ること

(2) 多治見市市民参加条例を制定（平成20年1月1日施行）

市政基本条例に基づき制定したこの条例では、市民参加についての理念や原則、市民参加の継続に必要な事項を定め、市民が市政に参加することを保障している。

- ①市政基本条例で市民参加を図るべき事例について、対象をより具体的に規定
- ②市民参加の方法について具体的に提示し、その方法をさらに詳細に規定
- ③応答義務や市民活動との連携協力を規定

2. これまで行ってきた市民参加手法

(1) 地区懇談会

平成8年度に初めて地区対話集会として開催した地区懇談会は、平成13年度からは年2回として、市内13地域（小学校区単位）で市民との意見交換を行っている。前期は全地域統一のテーマで、後期は地域ごとに前もって出されたテーマで開催している。地区懇談会での意見交換の内容は、ホームページに掲載するとともに、該当地域へ回覧している。

平成22年度は、前期611人、後期438人の計1,049人、1会場当たり40人が参加した。

(2) 市民意識調査

市政の満足度、優先すべき施策、生活実態などを把握するため、1年おきに市民意識調査を実施している。市の総合計画に合った質問項目で、無作為抽出した16歳以上の市民2,000人に調査票を郵送するとともに、広報紙にも同様の調査票を掲載し郵送回収している。結果は、それぞれの施策立案や評価などの参考としている。

(3) パブリック・コメント手続き

政策分野で基本となる計画の策定、条例や規則などの制定・改廃、事業選択などの際には、必ずパブリック・コメント手続きを行うよう条例を制定（平成20年1月1日）し、市民が意見表明を行うことができる機会を保障している。平成22年度の実施件数は98件で、計25件の意見が寄せられた。

(4) 審議会などへの参加

計画策定時や事業の選択・評価時に開催する審議会などには、原則として公募委員を加えることとしている。また、性別や年代に配慮している。

(5) 市長への提言

年1回、広報紙（広報たじみ）に提言用紙を綴じ込み、市民から市政全般に対する提言を募集している。平成22年度は31件の提言をいただき、関係課で提言への対応を検討した。なお、平成22年度から市役所1階ロビーに常設の提言箱を設置した。

3. 課題

以上のように、これまでさまざまな市民参加の手法を行ってきたが、参加する市民、意見表明する市民、公募する市民はどうしても偏ってしまう。市民参加をうたいながらも、市民多数の意見となっているのかは疑問であった。

このような背景のもと、無作為抽出による参加者抽出や参加者への謝礼金支払いなどにより、参加の動機付けを行った市民討議会は、市民参加のもつ課題に対して、全く新しい取り組みとなった。

IV. 実施に関する協定書

たじみ市民討議会の実施およびその手法の効果の検証・評価に関し、社団法人多治見青年会議所と多治見市との関係や役割分担、相互協力の内容を定めたものである。

また、市民討議会実施後に市に提出する報告書に記載された内容について、市は真摯に検討し、市政に生かすよう務めることが定められている。

「H e a r t o f T a j i m i
ーたじみ市民討議会2011ー」
の実施に関する協定書

「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会 2011ー」

の実施に関する協定書

社団法人 多治見青年会議所（以下「JC」）と多治見市（以下「市」）は、無作為抽出による市民がまちづくりの課題を討議し、その声を市政に反映させるために「たじみ市民討議会 2011」をともに実施し、併せてその手法の効果を検証・評価するために、次のとおり協定を締結します。

1. 協定の目的

本協定は、「市民討議会」の実施及びその手法の効果の検証・評価に関し、JCと市との間の関係や役割分担、相互協力の内容などを定めるものです。

2. 協働に関する原則

JCと市は、協働の精神に基づいて、お互いに次の原則を遵守します。

- (1) お互いが対等なパートナーとしての関係を保つように心掛けます。
- (2) お互いの立場を理解・尊重し、自由に意見を交換できる関係をつくります。
- (3) お互いの活動を理解し、その主体性・自主性を尊重します。
- (4) 個人情報の保護に配慮しながら、協働の過程や結果などの情報を公開し、市民の理解を得るように務めます。
- (5) 多様な市民の意見を集め、中立性・公平性を担保します。
- (6) 成果の手法について、ともに検証・評価します。
- (7) 「市民討議会」の成果について公開します。

3. 役割と責務

(1) JCの役割と責務

ア 広報活動に関すること

JCは、「市民討議会」を広く周知するために、広報活動を行います。

イ 報告書の作成に関すること

JCは、「市民討議会」の内容及びその手法について報告書にまとめ、市長へ提出します。

ウ 個人情報の保護に関すること

JCは、「市民討議会」を実施する上で、知り得た情報のうち、プライバシーに関するものについて、個人情報の保護を行います。

エ 経費の負担に関すること

JCは、別に定めるところにより「市民討議会」に係る経費の一部を負担します。

オ 運営に関すること

JCは、「市民討議会」の研究・学習を行い、運営を担います。

(2) 市の役割と責務

ア 広報活動に関する事

市は、「市民討議会」を広く周知するため、市広報紙等を活用します。

イ 参加候補市民のリスト抽出及び参加依頼に関する事

市は、住民基本台帳から参加候補市民の無作為抽出及び、参加依頼書の発送と参加承諾書の受領を行います。

ウ 情報提供に関する事

市は、JC に対し、「市民討議会」の実施に必要な情報の収集、提供を行います。

エ 場所の提供に関する事

市は、討議会の開催、準備に必要な会議室、事務室の確保を行います。

オ 経費の負担に関する事

市は、別に定める経費を予算の範囲内で負担します。

カ 報告書の検討に関する事

市は、3(1)イの報告書に記載された内容について真摯に検討し、市政に生かすよう努めます。

4. 協定の有効期限

本協定は、JC と市の合意をもって発効し、平成23年12月28日を有効期限とします。

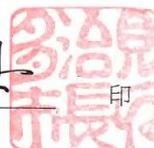
5. その他

本協定に定めのない事項で、「市民討議会」を実施する上で必要と認められるものについては、JC と市とが協議して定めるものとします。

平成23年 5 月 17 日

多治見市長

古川 雅典



社団法人 多治見青年会議所

理事長

大村 浩司



V. たじみ市民討議会当日の流れ

1. 参加者

たじみ市民討議会の参加者の決定は、20歳以上の市民を対象に住民基本台帳から無作為抽出を行い、選ばれた1,000人に参加を呼びかける依頼書を送付するところから始めた。当初の予定参加数は50人であったところ、依頼を承諾した市民は、59人であり、たじみ市民討議会当日の参加者は45人であった。

2. テーマ

今回のメインテーマは『支えあうまちづくり～高めようタジミストの絆～』とした。また各討議テーマは、

- 第1回 「地域で行う防災について考える」
- 第2回 「障がい者、高齢者等を地域で支えるためには？」
- 第3回 「安心して子育てを行える思いやりのあるまちにするためには？」
- 第4回 「生活環境をよりよくするために、私たちに何ができるのか？」

の4つとした。

3. 情報提供

1日目は、第1回目の話し合いのみを行い、2日目は、第2・3・4回目の話し合いを行った。

第1回目の討議テーマ「地域で行う防災について考える」

情報提供者 多治見市役所 企画防災科 塩崎達也さん

第2回目の討議テーマ「障がい者、高齢者等を地域で支えるためには？」

情報提供者 多治見市社会福祉協議会 酒井正広さん

第3回目の討議テーマ「安心して子育てを行える思いやりのあるまちにするためには？」

情報提供者 NPO法人・まーる 宮村登美子さん

第4回目の討議テーマ「生活環境をよりよくするために、私たちに何ができるのか？」

情報提供者 多治見市役所都市政策課 日比野 至さん

が行った。

4. 話し合いの方法

話し合いは、7グループ（1グループ6～7人）で行われ、テーマごとにグループのメンバーを入れ替えた。

話し合いを行うにあたり、それぞれのグループに配置されたスタッフ（補助係）による話し合いのルールの説明や自己紹介の後、グループの全員が「まとめ係」「進行係」「発表係」となるよう役割を決めた。話し合いを行っている間に、各自の意見を付箋に記入して、「話し合いシート」に張り付けていき、それを分類整理して、投票の対象となる「まとめ」（3つ以内）と、「残したい意見」を「話し合いシート」に記入することとした。話し合いの時間は、スタッフによる説明やまとめ（「話し合いシート」の記入）を含めて60分とした。

●まとめ係

付箋に書かれた意見を、メンバーの同意のもとに1～3つに分類し、グループの意見としてまとめる係

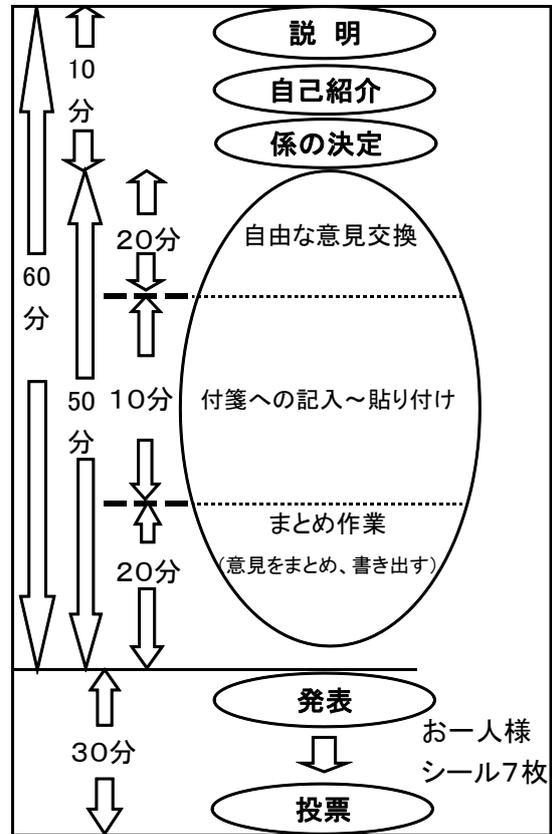
●進行係

グループ内で時間管理を行う係

●発表係

話し合いで出されたまとめ1～3と、残したい意見を発表する係

話し合いの流れ



話し合いシート

グループ名	メンバー
(話し合いのテーマを記入)	
作業スペース	
まとめ1	投票欄
まとめ2	投票欄
まとめ3	投票欄
残したい意見	投票欄

5. 発表と投票

1回目～4回目の話し合いの後にそれぞれ発表と投票を行った。

投票は、テーマごとに一人につき7枚のシールを用いて、それぞれ参加者が適当だと思うアイデアに対して、自由に投票を行うこととした。

Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会 2011ー 2日間のスケジュール

6月18日(土)【1日目】		6月19日(日)【2日目】	
(参加者45人)		(参加者44人)	
(参加者45人)		9:35～10:10	情報提供「障がい者、高齢者等を地域で支えるためには？」
		10:10～11:10	第2回話し合い 「障がい者、高齢者等を地域で支えるためには？」
		11:10～11:20	発表
		11:20～12:30	投票・休憩(昼食)
		12:30～13:00	情報提供「安心して子育てを行える思いやりのあるまちにするためには？」
13:00～13:30	主催者あいさつ 趣旨・進め方の説明	13:00～14:00	第3回話し合い 「安心して子育てを行える思いやりのあるまちにするためには？」
13:30～14:00	情報提供「地域で行う防災について考える」	14:00～14:30	発表
14:00～15:00	第1回話し合い 「地域で行う防災について考える」	14:30～14:50	投票・休憩
15:00～15:15	休憩	14:50～15:10	情報提供「生活環境をよりよくするために、私たちに何が出来るのか？」
(参加者44人)		15:10～16:10	第4回話し合い 「生活環境をよりよくするために、私たちに何が出来るのか？」
		16:10～16:40	発表
15:15～16:00	発表・投票	16:40～17:10	投票・休憩・アンケート
(参加者44人)		17:10～17:20	結果の扱い方・反映の仕方 報告書の説明

第2章 話し合いの結果と市民からの提言

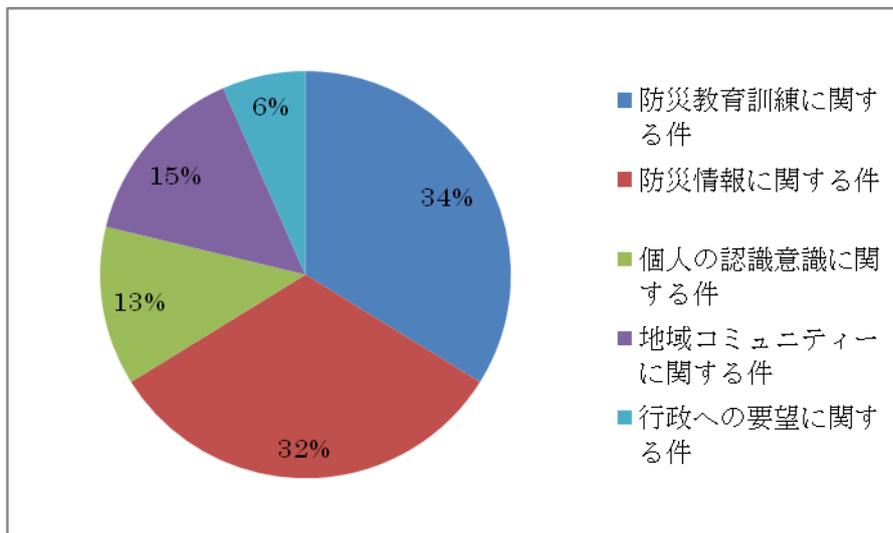
I. 市民からの提言

たじみ市民討議会の話し合いは4回行われたが、大変内容の充実したものであった。その結果である市民提案は、次のとおりである。

1. 討議テーマ「地域で行う防災について考える」に対し、以下を提言いたします。

市民一人ひとりが防災に対する知識を充実させ、防災意識を高め地域防災に繋げていく事が重要である為、市民が主体的に関与し、意思決定できる防災システムの整備を求めます。

- ・個々の知識の充実及び意識を高める為に、学校教育における防災教育・訓練の強化を望みます。
- ・地域により細分化されたハザードマップの作成及び、防災情報の提供それに基づいた地域特性に適した防災訓練の徹底を望みます。
- ・住民同士の繋がりが重要である為、地域コミュニティ形成又は、活性化の機会の創出を望みます。



【分類のポイント】

学校や地域における防災教育などといった意見を防災教育訓練に関する件として集約した。フリーペーパーや防災ネットワークの確立などといった意見を防災情報に関する件として集約した。各家庭内の防災対策が個人意識の向上持続などといった意見を個人の認識意見に関する件として集約した。住民台帳の提出強化、町籍簿の作成といった意見を地域のコミュニティに関する件として集約した。帰宅困難者のための宿泊設備の確保や要援護者の把握といった意見を行政への要望に関する件として集約した。

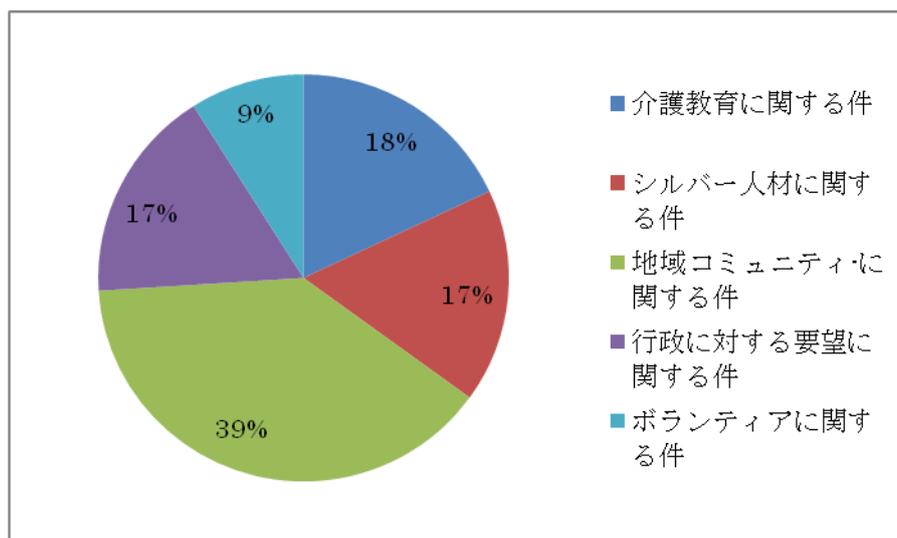
討議テーマ「地域で行う防災について考える」

いただいた御意見		得票数	計	得票率
○防災教育訓練に関する件				
災害教育（学校教育・ボランティア登録）個人技能得意（特殊なもの以外でも）	30	67	34%	
防災マップの普及、並びに非難訓練の徹底（幼、小、中、高校、企業、町単位で消防署、役所の方による正しい避難指導）	11			
地域で起こる災害は、市民一人一人がマニュアルやハザードマップに基づいた避難訓練をする（県外からこられた方々に対して情報提供を行政にしてもらう）	10			
災害時に実効性が上がるように訓練が重要である	5			
防災教育 ・組織からはずれている人たちへの防災をどうするのか	5			
ハザードマップ ・目の届くところに設置（バス停） ・地域の人の参加による見直し	6			
○防災情報に関する件				
防災意識を高める為 消防団体験および防災に関して情報を増やす	7	64	32%	
意識向上の為に、防災マップ、防災計画の日頃より周知を公報・フリーペーパー等を使い行っていく	17			
防災ネットワークの確立（危険場所・避難場所の指示）ラジオ、携帯電話、PC、地域パトロールの協力	16			
災害時の住民のための情報整備（地域に即した災害情報の整備（盛土・造成地とか））	7			
東日本大震災は直近の実例である、その取り組みをフィードバックして欲しい	3			
防災情報について ・防災マップの配布 ・防災への意識を風化させない	8			
災害情報 ・市によるホームページ ・スマートフォン対応アプリの充実 ・ネット、おりべ（TV）、公報誌による即対応 ・FMP i P i（ラジオ）	6			
○個人の認識、意識に関する件				
地域についての個々の認識が合わない（年齢・住居・性別→考える）	4	25	13%	
防災意識を高めて、住民が知識を持ち続けられるシステムを構築する 個人の意識向上が必要である	4			
各家庭内の防災対策を行うとともに、個人への周知徹底を行って行く	4			
後、火災や地元の災害は各個人一人一人が安全に非難する	2			
個人の意識の向上・持続	11			
○地域のコミュニティー(町籍簿、住民台帳)				
行政(市政)に町籍簿を作成協力してもらおう(古い・狭い道路の整備もしてもらおう)	5	29	15%	
防災には人の協力が不可欠であり、普段から近所付き合いが大事	14			
住民台帳の提出強化	6			
町籍簿の作成（個人情報保護法？） 地域のコミュニケーション	4			
○行政への要望に関する件				
帰宅困難者の為の宿泊設備・移動手段を確保する	5	13	7%	
人災に対応できるマニュアルの作成 地元企業の自社危険の有無の把握と対応と行政からの指導（耐震・補強等）	4			
行政への提言 ・災害の最悪のシナリオによるシミュレーション ・対策を準備する ・要援護者の把握を市として行い町内への実行に役立てる	2			
耐震基準を満たさない建物や危険個所の改善に対して、行政が後押しする	2			
合 計	198	198	100%	

2. 討議テーマ「障がい者、高齢者等を地域で支えるためには？」に対し、以下を提言いたします。

障がい者・高齢者の方たち及びその家族が、孤立することなく安心して生活でき、自主的に活動できるよう地域全体で支える基盤整備を求めます。

- ・支援者の底上げを図る為に、ボランティア教育の充実及び、介護教育、資格取得の支援強化を望みます。
- ・やりがいを持って頂き、地域における繋がりを強める為にもシルバー人材が活躍できる基盤整備を望みます。
- ・障がい者、高齢者をコミュニティーの中心に置き、交流の機会を増やすと共に、地域やまち全体で支える社会システム構築を望みます。



【分類のポイント】

学校の授業にボランティアを取り入れる、また専門家に講演を実施してほしいなどといった意見を介護教育に関する件として集約した。高齢者の方が利用しやすいシステムなどといった意見をシルバー人材の活用に関する件として集約した。高齢者と子供の交わりの場が必要、障がい者・高齢者を支える家族の支援が必要といった意見を地域コミュニティに関する件として集約した。介護用品貸し出しや補助金のPR・健康診断の充実といった意見を行政に対する要望に関する件として集約した。障がい者の方が参加しやすく活用できる行事またはボランティア募集PRといった意見をボランティアに関する件として集約した。

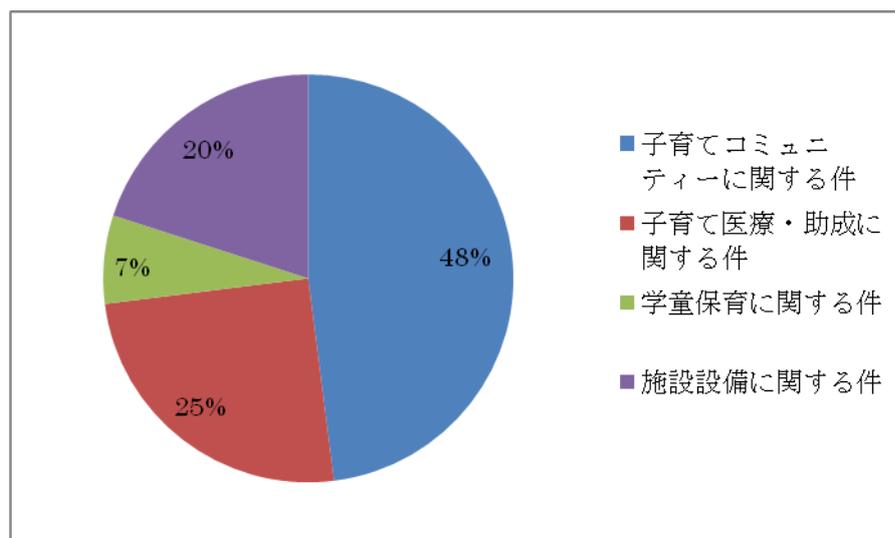
討議テーマ「障がい者、高齢者等を地域で支えるためには？」

いただいた御意見		得票数	計	得票率
○介護教育に関する件				
	学校の授業にボランティアをとり入れる ・元気な定年退職者に呼びかける	17	48	18%
	教育：専門家に講演を依頼し、実施して欲しい。小・中学校に福祉教育のカリキュラムを入れる	9		
	ボランティア、介護の体験、教育 小・中・高校での日常化！ 資格取得	22		
○シルバー人材の活用に関する件				
	シルバー人材を活動化し、高齢者にもっと仕事を！（収入があり、やりがいも出てくる！）	21	46	17%
	サービスの情報を公開し、高齢者の活躍場所を提供する	9		
	地域、町内単位でボランティア登録を行い、高齢者の方が利用しやすいシステムを作る また高齢者の方自身も活躍や交流できる場を作る	16		
○地域コミュニティに関する件				
	高齢者の居場所作り：グリーンカーテンや花の種の配布、育てた作品の展示会	12	105	39%
	障がい者とふれあう機会を持つ為の情報が欲しい（広報紙は一枚ペラにしてほしい）	2		
	一人暮らしの方にどんどんかかわっていく デイサービスのハードルを低くする	9		
	障がい者、高齢者を支える家族が重要（息抜きの場が必要）	12		
	外出困難者への介助拡大 交通手段の拡充と案内表示の見直し	4		
	高齢者と子供の交わりの場が必要！！（託児支援にもなる）	14		
	挨拶は人との繋がりへの第一歩 ゴミは全ての人が出すため、ゴミ出し時は大切な挨拶の場となる	5		
	車に乗れない人の生活範囲は狭い 人によって生活の活動範囲が違う	4		
	おじいさん、おばあさんの合コンの提案	15		
	「おせっかい」というコミュニティーの場をつくる	11		
	高齢者をコミュニティーの中心に、周辺の持ち家を次世代に提供するシステムを行政で行う	17		
○行政に対する要望に関する件				
	散歩道や公園の整備してもらい健康なうちに交流の場を拡大していく	3	47	17%
	介護用品貸し出しや補助金のPR	6		
	健康診断の充実!!	6		
	外出困難者への介助拡大 交通手段の拡充と案内表示の見直し	11		
	車に乗れない人の生活範囲は狭い 人によって生活の活動範囲が違う	8		
	市の公共財産。公民館、集会所等を有効利用できる調査を願い、福祉活動を行える場所を明確にする	9		
	グループホームが進む高齢化社会は時代の必然であると思う 福祉協議会は、その効率化を求めて、行政を進めてほしい	4		
○ボランティアに関する件				
	ボランティア募集PR 年代別ツールの使い分け	7	24	9%
	参加したいボランティア環境作り	1		
	ボランティアの方法の工夫	5		
	障がい者の方が参加しやすく、活用できる行事や、ボランティア活動に参加できる機会を増やす	11		
合 計		270	270	100%

3. 討議テーマ「安心して子育てを行える思いやりのあるまちにするためには？」に対し、以下を提言いたします。

安心して子育てを行える思いやりのあるまちにするために、孤立しない子育ての仕組み作り、情報の提供を求めます。

- ・子育て世代と子育て経験者が集い会えるような、子育て憩い広場（仮称）の増設を望みます。
- ・地域コミュニティーの強化、同じ境遇の親御さんの相互支援の機会を創出する為にも子供の会の整備及び推進を望みます。
- ・緑を増やすなど憩いの場所、又は交流の場所として、児童館の活性化、遊歩道や公園の整備などを望みます。
- ・子育て支援のための医療費免除期間の延長を望みます。



【分類のポイント】

子供会の見直し、子育て応援のボランティアグループ作りといった意見を子育てコミュニティーに関する件として集約した。医療費の義務教育間の無料や母親の負担軽減などといった意見を子育て医療・助成に関する件として集約した。学童保育所の利用料金の均一化、学童保育期間の延長などといった意見を学童保育に関する件として集約した。児童館の活性化、ベビーカーがスムーズに移動できるまちづくりといった意見を施設整備に関する件として集約した。

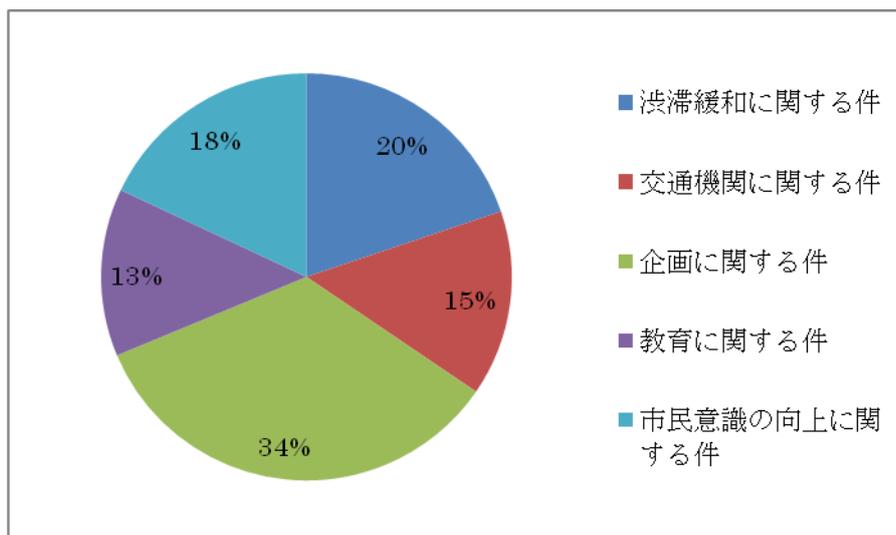
討議テーマ「安心して子育てを行える思いやりのあるまちにするためには？」

いただいた御意見		得票数	計	得票率
○子育てコミュニティに関する件				
子どもの交通安全を見守る。小さな子供がいる家を旗等で知らせる	5	134	49%	
地域のカミナリ親父(おばさん)を増やす 近所の登録制のおじいちゃん、おばあちゃんの力を活用する	12			
子育てストレスの軽減 ママ友作り、広場 高齢者の経験を活かせる場所作り	14			
地域のイベント推進 お祭りを親・子・孫みんなで盛り上げる	10			
強い子作りの冒険(川遊び、ウォーキングetc)	6			
子ども会の見直し※ネットワーク化、人材育成 (子ども会同士でどんなイベントをしているか共有する)※老人と子供との交流	16			
産婦人科の活用(産前・産後の交流の場に) 移動する子育て場をつくる	4			
子育て応援のボランティアグループ作り (子どもの代理おじいちゃん、おばあちゃん、一時預かり)	16			
結婚・子育て前の若者に子どもとかかわる機会を設ける 学童保育指導員や子育てサークルのスタッフに 学生等の若者を活用する	10			
必ず母親が見る場所でのコミュニティー場の情報を 予防接種の機会等に	5			
イベントや学校行事を通じて地域力を高める(盆踊り、ラジオ体操への住民参加、歩け大会等)	7			
核家族に対して地域の知恵袋隊(知恵の老人の方々)の支援	8			
子育て経験者<母親、保育士、高齢者(シルバー人材センター)>の知識を得られる場所(児童館、公民館、学校の空き教室) 機会を作る	21			
○子育て医療、助成に関する件				
専業主婦への子育てをしながらできる内職を、行政は優先的に広報する	14	68	25%	
子育ての目的税を創設する。(多治見市の目的税)	6			
母親の負担軽減(医療費、保育費etc)他市町を参考に	12			
医療費を義務教育まで無料にする。(現在は小学校3年生までしかない)	20			
医療制度の充実 医療費免除期間の延長	14			
「まんま〜る」の活動の強化(拠点の増 毎日の開催)	2			
○学童保育に関する件				
学童保育の金額を下げしてほしい。(名古屋市は無料)	3	19	7%	
有職者の母親への支援 学童保育期間の延長(小学校4年生からも)	5			
学童保育所の利用料金の均一化	11			
○施設整備に関する件				
施設整備(児童館の活性化、公園など)、マップ化(遊具、施設等の紹介)	13	55	20%	
安心して遊べる環境の整備(講演、公民館など)	6			
ベビーカー(自転車)がスムーズに移動できる街づくり	10			
住宅1棟を夜泣きOKの棟にし、下に保育資格を持つ人に、低料金で住んでもらう	9			
行政が子供目線に立ってなく問題だ!!(幼稚園と保育所の一体化)	8			
働くお母さんを支える環境を作る(例:駅前に子供預かりの施設を作る)	9			
合 計	276	276	100%	

4. 討議テーマ「生活環境をよりよくするために、私たちに何ができるのか？」に対し、以下を提言いたします。

生活環境をよりよくするために、個人や地域単位で出来る活動を実施します。また市民と行政が一体となった政策を求めます。

- ・日本一暑いまちというイメージをポジティブに捉え、官民一体となった日本一エコなまちづくりを求めます。
- ・各交通機関との連携を取り、利便性を追求すると共に、自転車による移動を推進するなど自家用車に頼らない交通網の整備を望みます。
- ・たじみのシンボリックな存在である場所に記念樹や桜を植えるなど、市民の意向を反映させたり、記念樹の場所を提供するなど市民と行政の協働による緑化計画推進を望みます。



【分類のポイント】

自転車道の整備、道路のバリアフリー化などといった意見を渋滞緩和に関する件として集約した。公共交通機関の整備、コミュニティバスの路線拡大などといった意見を交通機関に関する件として集約した。土岐川の堤防に植樹をする、環境政策を具体的にPRなどといった意見を企画に関する件として集約した。モラル教育、環境向上の為の教育とイベントなどといった意見を教育に関する件として集約した。グリーンカーテン活動、ノーカーデーの採用などといった意見を市民意識の向上に関する件として集約した。

討議テーマ「生活環境をよりよくするために、私たちに何ができるのか？」

いただいた御意見		得票数	計	得票率
〇行政に関する意見				
渋滞緩和に関する意見	自転車道の整備、サイクリングロード等 自動車主体からの転換をする（電動アシストレンタルサイクルの貸出）	15	55	20%
	道路のバリアフリー化→自転車利用の促進（マイカーの自粛）	8		
	渋滞緩和の為に商業施設を分散する	8		
	緊急車両又は病院（県・市民）利用者の為の道路整備をする 愛岐道路から県病院へ橋を掛ける	17		
	各高校への送迎バスを運行させ、朝・夕の渋滞回避を図る	7		
交通機関に関する意見	独自の都市計画化を作る ・コミュニティバスの路線拡大	10	41	15%
	大木等大きな庭木を市の清掃日に出せるようにしてほしい バス接近メール情報	5		
	コミュニティバスの増設、増発(商店街のチャーターバス(タイアップ))	7		
	公共交通機関(バス)の充実(・コミュニティバスの増発延長・文化的環境の充実(シネマ・モール)によって中核都市活性を図る	8		
	公共機関の整備 ・駐輪場の拡大 ・電車とバスの発着時間のつながりをよくする ・自転車の利用がしやすい町作り	11		
企画に関する意見	行政の方向性のPRの充実(公共交通ガイドブック 緑化計画 都市計画) ・・・ロコミする	11	95	34%
	土岐川の堤防に桜を植えたい・・・記念樹活動	18		
	行政の環境政策の具体的PRの充実(窓口での申請内容に付随する情報の提供 各種ガイドブック各戸配布)	12		
	スーパーより大きなショッピングモールが欲しい	12		
	日本一暑い町をアピール ・暑さ対策 ・サミット開催 ・ミストシャワーの設置 ・プールを作る	6		
	木材ゴミの破棄の緩和 ・資源として回収→たい肥 ・回収方法の変更(曜日を決めトラックで回収) ・山林の手入れ	13		
	屋上緑化の推進、義務化(庭木処理の無料化)	8		
	土岐川でB・B・Q(・公園の整備・映画館が欲しい)	12		
	広告設置にルールを→設置時に撤去の費用を収め、放置させない	3		
〇教育に関する件				
<緑化> 植樹にストーリーを持たせた緑化管理(桜並木など) ・教育の中で市の花や木に親しみを持たせる	16	37	13%	
	モラル教育を進める ゴミ捨てに対して罰則を！(空き缶、ペットボトル、犬のフンなど)			11
	環境向上のための教育とイベント(・学校での教育・ガーデニング教室・一般家庭のお花コンクール・企業の駐車場緑化)			10
〇市民意識の向上に関する件				
<公共交通機関の活用> 歩ける人は歩く 自転車に乗れる人は乗る バスに乗れる人はバスに乗る意識	3	50	18%	
	良い生活環境に関する新しいイメージをする 例え：日本一暑い街→日本一クールビズの進んだ街			12
	住民の意識改革：近所のゴミ拾い グリーンカーテンの活動 子供の教育(もったいない精神など)			18
	節電コンクールをしよう！(節電、エコの意識づけ)			10
	交通手段の意識改革(・ノーカーデーの採用・自動車以外の乗り物の活用・歩道の整備)			7
合 計		278	278	100%

取りまとめシートの内容「討議テーマ1」	
Aグループ	安藤 土本 林 宗田 中島 宮島 野原
討議テーマ 地域でおこなう防災について考える！	
<ul style="list-style-type: none"> ・予想される災害を示した防災マップの作成。地域の人も参加して作成してみては？ ・災害パックとして各地域(マンションなど)に合ったものを提供し選択 ・基本は自助努力でありその人(家族)の考え方も尊重できるつながりが良いのではないか ・防災とは？具体的には火災、水害についてイメージしないと動けない ・普段から近所付き合いをできる範囲でしてみる ・地域の人ともっと日頃ひたしくなることに気をつけて行く ・町内会という集団が市が考える救済の対象だと全ての人が考えること ・地域という事だと一緒に行なう事は難しいと思います。だったら何もしないのではなく、防災についての準備をしておくの良い物、避難所ならココ!!みたいな場所 いざ災害がおこった際はといった事の内容を記載した物を配布 ・町や市というのは単位が大きいので、まずは行政上の区切りは関係なくマンションや近所でつながっていくのが大切 ・『自分の命は自分で守るべきもの』まず、自分が、前もってどうすれば良いのか考えておいてすごしてみる ・多治見市での災害として想定出来ない(分からない)⇒それを見えるといい ・消防団などに気軽に参加できる(経験できる)と良いのではないか ・地域の住民について？救急車はタクシーではありませんというポスターを見ました ・全ての「不足」が「不安」となる。1人1人が自らの資源を高める意識を1人ずつ教育としていく ・災害時正確な情報を集める(市の緊急メール登録などを活用する) 	
まとめ1欄	投票
地域についての個々の認識が合わない(年齢・住居・性別 →考える)	4
まとめ2欄	投票
防災意識を高める為 消防団体体験および防災に関して情報を増やす	7
まとめ3欄	投票
災害教育(学校教育・ボランティア登録(個人資源 技能 得意 (特殊なもの以外でも))	30
残したい意見欄	投票
『ナシ』	0

取りまとめシートの内容「討議テーマ1」	
Bグループ	伊藤 早川 渡辺(拓) 渡辺(淳) 堀 福山
討議テーマ 地域でおこなう防災について考える！	
<ul style="list-style-type: none"> ・多治見市内の防災の危険度を知らせて欲しい ・防災マップの住民への周知が必要 ・防災アナウンスの聞こえる地域、聞こえ難い地域の確認 ・地域の防災意識の向上を繰り返し行う事が重要です ・フリーペーパーを利用して、浸水の危険がある地域や土砂災害の危険がある地域を知らせる ・市民への周知をするために防災計画や危険地域を民間のフリーペーパーや公報や防災無線を利用する ・公報などを改善して絵(アニメ)や写真などで(カラフルなものにして)目を引く物にして、防災のみでなく他の事にも興味を持ってもらう、紙の質を悪くしても良いと思います ・市の防災計画を市民に連絡する方法を増やして欲しい→地域や人によって防災に対する温度差が大きい ・参加する事で興味を持ったりするので、各行事で町内単位などで参加する ・帰宅困難者の問題 ・市民以外の被災者の避難場所を確保する、帰宅困難者の保護 ・帰宅困難者を宿泊させる場所を準備する、名古屋まで送るバスなどを用意する ・防災袋を各家庭が用意し、災害時に持ち出せるように複数用意する 	
まとめ1欄 防災意識を高めて、住民が知識を持ち続けられるシステムを構築する個人の意識向上が必要である	投票 4
まとめ2欄 意識向上の為に、防災マップ、防災計画の日頃より周知を公報・フリーペーパー等を使い行っていく	投票 17
まとめ3欄 各家庭内の防災対策を行うとともに、個人への周知徹底を行って行く	投票 4
残したい意見欄 帰宅困難者の為の宿泊設備・移動手段を確保する	投票 12

取りまとめシートの内容「討議テーマ1」	
Cグループ	田中 古田 伊藤(敏) 伊藤(静) 梶田 春田
討議テーマ 地域でおこなう防災について考える！	
<ul style="list-style-type: none"> ・個人で災害の意識を高くするには、学校や会社等でコミュニティを作り心構え、防災訓練を行う ・ネットワークの確立(学校、会社、老人?) ・小・中・高、企業、公民館等のネットワークを利用して災難訓練消防局に参加意識の提供を行う ・毎年出る数十名の犠牲者は老人が多い、市単位でなく町、丁(区)単位でどんな人が住んでいるか把握して弱い立場の方をいざとなったらサポートできるようにする ・災害、大災害への対応と地域での通常の災害での対応 ・災害訓練の実施(所要時間の把握) ・班戸単位での防災訓練の慣例化(専門家を招く)一斉訓練の実施 ・行政との連携、的確な避難場所 ・町内にある危険場所の把握(危険が発生した際のマニュアル作成) ・住民台帳を町内には全員提出する ・地域の住民マップの作成(特に独居老人、障害者の住まい) ・地域で人と人とが繋がれる環境により犠牲者の方を減らす方向に出来るのではないか ・防災無線(お知らせ)を各戸に設置する(相互に連絡を取合えるシステム) ・災害には人災も含める 	
まとめ1欄 防災マップの普及、並びに非難訓練の徹底(幼、小、中、高校、企業、町単位で消防署、役所の方による正しい避難指導)	投票 11
まとめ2欄 防災のネットワークの確立(危険場所・避難場所の指示)ラジオ、携帯電話、PC、地域パトロールの協力)	投票 16
まとめ3欄 住民台帳の提出強化。地域の繋がり、絆によって自分たちで守れる防災に取り組む	投票 6
残したい意見欄 人災に対応できるマニュアルの作成。地元企業の自社危険の有無の把握と対応と行政からの指導(耐震・補強等)	投票 9

取りまとめシートの内容「討議テーマ1」	
Dグループ	水野 小野木 林 田中 圓藤 久保
討議テーマ 地域でおこなう防災について考える！	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民が常に防災に意識がもてるようなマニュアルがあると良い ・市民一人一人の防災に対する状況判断能力を高くする対策 ・地元の災害はどのような災害が起こるか、その災害に合った防災マニュアル作りで防災グッズ、自分達の避難場所いくらかは把握する ・避難訓練もっとあると良い ・地域の町内会議で避難場所の確認、防災用品の確認を出席者皆でおこなう□(その内容を回覧版で知らせる) ・町内会未加入者の情報収集、自己判断の大切さ、それをまとめて行動する(リーダーが必要、誰が?) ・町内会内の人の繋がりが希薄でどのような人がいるのか分からない(町籍簿は無い、必要ないのか) ・個人情報保護と地域の繋がりの問題 ・火災に対する対応を考えておく ・自分の家から出ない(災害時) ・自分の生活の場が安全な場合は移動しない、但し安全でない場合は直ぐに安全なところへ行く ・地域における災害の想定をしてそれに対する防災を個人単位で考える ・自分の生活の場が安全な場合は移動しない、但し安全でない場合は直ぐに安全なところへ行く ・地域における災害の想定をしてそれに対する防災を個人単位で考える ・行政を信用しない、自分を信じる(人を頼らない) 	
まとめ1欄 地域で起こる災害は、市民一人一人がマニュアルやハザードマップに基づいた避難訓練をする(県外からこられた方々に対して情報提供を行政にしてもらう)	投票 10
まとめ2欄 行政(市政)に町籍簿を作成協力してもらう(古い・狭い道路の整備もしてもらう)	投票 5
まとめ3欄 後、火災や地元の災害は各個人一人一人が安全に非難する	投票 2
残したい意見欄 ナシ	投票 0

取りまとめシートの内容「討議テーマ1」	
Eグループ	伊藤 太田 河村 橋本 丸山 小島 市橋
討議テーマ 地域でおこなう防災について考える！	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の名簿(何かあったら近所の人への助けが重要) ・町籍簿があるがプライバシー保護法の関連で生かされていないと思う ・自分の住んでる地域の情報が必要で、それに対して日頃から取り組むことが重要 ・広報等のスピーカー放送があるが、それが緊急時に有効性があるか？ ・防災に関する知識がどのようなものがあるか分からない ・防災無線が聞きにくい、もう少し聞き易くなると良いと思う ・多治見は造成地が多いので、埋土か切り土かで災害の予想ができるのでは？ ・最初の的確な情報が大事ではないか？(台風・地震) ・防災無線とかの情報が有ればいいのに ・非常食とかの意識はあるが、そのメンテも重要だと思う ・防災に対して起こるであろうことを想定して、教育訓練が必要だと思う ・防災には地域の『町おこし』が重要で、盆踊り・町内清掃等で連帯感が重要 ・防災は話し合うには範囲が広すぎる ・東日本大震災でいろいろな取り組みが紹介されていたが、その良い点をフィードバックしたら？ 	
まとめ1欄 災害時の住民のための情報整備(地域に即した災害情報の整備(盛土・造成地とか))	投票 7
まとめ2欄 災害時に実効性が上がるように訓練が重要である	投票 5
まとめ3欄 防災には人の協力が不可欠であり、普段から近所付き合いが大事	投票 14
残したい意見欄 東日本大震災は直近の実例である、その取り組みをフィードバックして欲しい	投票 3

取りまとめシートの内容「討議テーマ1」	
Fグループ	浅井 白石 服部 國枝 四方 伊藤 森
討議テーマ 地域でおこなう防災について考える！	
<ul style="list-style-type: none"> ・防災放送設備の整備。 ・各自、自家発電のライト、ラジオを携帯する。 ・30年後に80%の確率で大地震が来る。 ・個々のモチベーションを高める。地域として、町内会への参加。 ・風化させない。教育、インホメーションの提供。 ・防災教育を行う。学校、職場、地域等。 ・防災のための活動をもっと知らない人に知らせたりする。 ・防災に対する意識の高さ。5年～10年と持ち続ける。 ・報道だけに左右されない。 ・防災のパンフレット等を作成する。 ・情報伝達の手段。 ・自分の住む地域のリスクを知る(行政から情報提供)。 ・町籍簿を作成し、記入する。 	
まとめ1欄 防災情報について ・防災マップの配布 ・防災への意識を風化させない	投票 8
まとめ2欄 防災教育 ・組織からはずれている人たちへの防災をどうするのか	投票 6
まとめ3欄 個人意識の向上. 持続	投票 11
残したい意見欄 ・町籍簿の作成(個人情報保護法?) ・地域のコミュニケーション	投票 4

取りまとめシートの内容「討議テーマ1」

Gグループ	森川 馬場 神野 秋田 酒井 宮下	
討議テーマ 地域でおこなう防災について考える！		
<ul style="list-style-type: none"> ・予想される災害を示した防災マップの作成。地域の人も参加して作成してみては？ ・高齢者が住んでみえる場所の把握。 ・市は個人情報公開をこえて、要援護者の所在、対応を把握しておく。 ・バス停や回覧等、目のつくところに危険マップを貼って周知する。 ・ハザードマップに対策をプラスしたものを用意する。 ・災害マップを町内に設置する。 ・ハザードマップ。 見えるところ、 対応を含めたもの、 住民の参加型の情報を入れる。 ・災害時の情報を手軽に入手出来るようにする。携帯、スマートフォン等から。 ・防災情報に「おりべ」を利用する。 ・防災経験、事例などを市報でPRする。 ・雪や豪雨時の地元の映像をより多く、ネット上、等で見るができるようにする。 ・災害のシナリオを作って、対応策を準備する。 ・情報公開 市によるアプリ、スマートフォン、公報誌、ネット、おりべ 即対応。 ・耐震基準の出来る前の建物や、町内の危険箇所を把握、個人で直接言えない事を行政に言って欲しい。 ・安全パトロールをもっと広げる。 ・これを縦軸に町内の援助体制をつくる。 		
まとめ1欄 ハザードマップ。 ・目の届くところに設置(バス停) ・地域の人参加による見直し	投票	21
まとめ2欄 災害情報。 ・市によるホームページ ・スマートフォン対応アプリの充実 ・ネット、おりべ(TV)、公報誌による即対応 ・FMPiPi(ラジオ)	投票	6
まとめ3欄 行政への提言。 ・災害の最悪のシナリオによるシミュレーション ・対策を準備する ・要援護者の把握を市として行い町内への実行に役立てる	投票	11
残したい意見欄 耐震基準を満たさない建物や危険箇所の改善に対して、行政が後押しする。	投票	15

取りまとめシートの内容「討議テーマ2」	
Aグループ	伊藤(静) 森 橋本 神野 伊藤 水野
討議テーマ 障がい者、高齢者等を地域で支えるためには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・年をとる前に友達を作り独りにならない環境を作る ・遊歩道、公園の整備 ・年よりにならない ・市民が交流出来る緑のある公園(ウォーキングコース)・健康でいられる・人とのつながり ・町内で散歩道を利用できる様、市がもっとPR整備して欲しい ・高齢者の年齢になるまでにそういった知り合いをつくれるように太平福祉センターのような子供も高齢者の方も散歩をしたい方も集えるような場所があるといい ・健常者にも交流の場を拡大していきたい ひきこもりにならないよう予防的な交流(趣味) ・健常者にも交流の場を拡大していきたい ひきこもりにならないよう予防的な交流(趣味) ・地域の障害者高齢者をまず知ること コミュニケーションを取る事 まずはいさつから ・ボランティア精心をやしなう教育・道徳授業 ・教育の中でボランティアの大切さを教える また家庭や身近な大人達もそういった大切さ 実際ボランティアをしている姿をうえつける事もできるのではないかな ・定年退職者の福祉活動参加を行政(市)が後押しする ・ボランティアの本部を作る 一元化 地域以外の所でもささえられるように ・ボランティアを育てる 授業として子どもに教える ・介護用品を買う時にほじょ金を出す 市内で購入の場合に限る ・車イス・ベッド等貸出をしている こういった利便さをもっとみんなに知ってもらえるまたは個人個人 そういう意識を高める ・健康診断等の項目を増やす(市からの案内文記載では現在少ない) 	
まとめ1欄	投票
散歩道や公園の整備してもらい健康なうちに交流の場を拡大していく	3
まとめ2欄	投票
・学校の授業にボランティアをとりいれる・元気な定年退職者に呼びかける	17
まとめ3欄	投票
介護用品貸し出しや補助金のPR	6
残したい意見欄	投票
健康診断の充実!!	6

取りまとめシートの内容「討議テーマ2」	
Bグループ	服部 安藤 伊藤 渡辺 梶田 白石
討議テーマ 障がい者、高齢者等を地域で支えるためには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・公民館などの公共の場所で障がい者、高齢者の福祉について専門家の講演の機会を増やす ・障がい者、高齢者に自分になったらと常に考える ・高齢者、障がい者を含め、福祉教育を低年齢から考えられるように、授業に取り入れる ・コロニーのこぼと学園？青い鳥学園のスタッフからの講演を依頼 ・障がい者 * 専門医などによる講演会の開催 * 協力体制の確立(障がい者を持っている家族への情報) ・スーパーなどで大きな声を出す子がいても、普通に接する ・杖をついている人の荷物を持つ、席を譲る ・高齢者 趣味の合う方々での交流会の実施 ・高齢者 町内・区単位による一人暮らしの方等のヒアリング等 ・有事に誰に連絡するのか(身内、親族等)の町内連絡先の作成 ・一人住まいの方が何かあった時の連絡先の電話番号を町内で書き留めておく ・移動手段がない先へ訪問介護だけでなく、訪問美容室、理容室、電気屋等各店が訪問活動を登録し、社協等で調整、連絡等 ・町内会を増やし、何度か顔合わせが出来るように ・高齢者同志での介護が増えているので、地域全体で見守ることが大事だと思います ・植物の配布、育てる支援、育てた植物の発表会(展示会) ・認知症予防の体操、計算ドリルの紹介 ・障がい者の人たちとふれあう機会がなかなかないと思うので、もっと増やしたりして、障がいへの理解を深めたりできるといいと思います ・病院にかかっている薬ははっきりと断る、できるだけ日中に受診する ・一人暮らしの家にどんどんかかわっていく ・デイサービス(介護保険法)のハードルを低くする 	
まとめ1欄 教育: 専門家に講演を依頼し、実施してほしい。 小・中学校に福祉教育のカリキュラムを入れる。	投票 9
まとめ2欄 高齢者の居場所作り: グリーンカーテンや花の種の配布、育てた作品の展示会	投票 12
まとめ3欄 障がい者とふれあう機会を持つための情報がほしい (広報紙は一枚ペラにしてほしい)	投票 2
残したい意見欄 一人暮らしの方にどんどんかかわっていく。 デイサービスのハードルを低くする	投票 9

取りまとめシートの内容「討議テーマ2」	
Cグループ	浅井 林 伊藤 田中 国枝 古田 四方
討議テーマ 障がい者、高齢者等を地域で支えるためには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・外出困難者への買物支援で生協と協力 ・交通機関の利便性の強化 ・交通機関の整備 格安福祉専用バスの設置 電話一本でお迎え ・市のバスの利用時間・利用場所の改善 ・体験教育の充実 ・バス等の利用促進 ・ボランティア活動の教育への取り入れ ・義務教育の中で、ボランティア活動をカリキュラムに入れ、興味の出た子には資格等を支援していく仕組みを作る ・ボランティア活動の系統化、継続化 学校教育→地域へ小さい時から関心を持たせる ・学生と高齢者とのふれあい ・子育て支援で学童保育の延長 ・中学校、高校で介護、ボランティアの体験 ・簡単な資格の取得 ・PR不足 ・のちのち自分にかえて来ることを考える ・コミュニケーション ・障がい者・高齢者の身になって ・参加し易い環境作り(ボランティア) ・ボランティア募集PRを(専門性、特技) ・ボランティア活動の周知 	
まとめ1欄	投票
ボランティア、介護の体験、教育 小・中・高校での日常化！ 資格取得	22
まとめ2欄	投票
外出困難者への介助拡大 交通手段の拡充と案内表示の見直し	11
まとめ3欄	投票
ボランティア募集PR 年代別ツールの使い分け	7
残したい意見欄	投票
参加したいボランティア環境作り	1

取りまとめシートの内容「討議テーマ2」	
Dグループ	宮下 田中 市橋 野原 丸山 森川 園藤
討議テーマ 障がい者、高齢者等を地域で支えるためには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・要介護者を支える家族に対する活動も取り入れて欲しい ・身体障害者には健常者と見てあげ、気軽に手を貸す感覚が必要 ・障害者は若いので、特定のグループより健常者と同じように扱って欲しいのでは？ ・障害者の家族の、相談窓口を設ける(平日の昼間に限定したい) ・障害者は若い方が多く、逆に家族に家族を支えていただきたい ・知的障害者には行政の手厚い保護が必要 ・障害者は、周りから支えるとニーズが少ないのではないか？プライバシー重視 ・体験ボランティアでやった事が、一歩踏み出すのに役立っている ・障害者に対する接し方の教育を行う ・知的障害者と身体障害者をわけて考えるべき！知的障害者は温かく、身体の場合は自立を ・高齢者と障害者を分けて考える必要がある ・高齢者は色々な特技を持っているが、生活が厳しい人はそれを活かせていない ・外に出て人と話をする事が重要だ！！ ・社協、行政でシルバー人材センターの活用を積極的に行う ・健康の為には、晴れた日に1日1回でも外に出てみる(庭周りの散歩など) ・児童館など、子供が集まるところで高齢者主催の行事を行う ・高齢者になる前の「今」から近所付き合いをしていく ・元気な高齢者をつくる ・高齢者は、交通の便が悪いと交流し難い。グループで支える方法を！ ・誰にでも声を掛けあいさつをするようにする ・高齢者にはプライドがあり声を掛けづらい ・高齢者でも色々な環境があるので、恵まれている人は除く ・必要な支援をボランティアへ伝えられるシステムが必要なのでは？ ・サロンの場を増やし、同じ立場の人が話し合える機会をもっと作る 	
まとめ1欄	投票
障害者、高齢者を支える家族の支援が重要(息抜きの場が必要)	12
まとめ2欄	投票
健康な高齢者を目指す事が重要(サークル活動で高齢者のプライドを破る) (仲良く)	4
まとめ3欄	投票
シルバー人材を活動化し、高齢者にもっと仕事を！ (収入が有り、やりがいも出てくる！)	21
残したい意見欄	投票
高齢者と子供の交わりの場が必要！！(託児支援にもなる。)	14

取りまとめシートの内容「討議テーマ2」

Eグループ	小島 林 土本 河村 福山	
討議テーマ 障がい者、高齢者等を地域で支えるためには？		
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は人とのつながりの第一歩 ・女性同士は近所の人ををよく知っているが、男性は知らない事が多い。挨拶の大切さを学校で教える事も大事。習慣にしていくと子供もかわる。 ・小学校の子供から挨拶してくれてびっくりした。会えば挨拶する習慣をつける。 ・近所単位で、一人暮らしのお年寄りに気軽に声掛けしてあげる事も大切では？ ・挨拶のシステム化。ゴミ捨てが良いコミュニケーションの場になっているのでは？ゴミ袋の色が暗いのでは？ ・広報等で、地域に住む障害者、高齢者への声掛けを日頃からしてもらえるようにする。 ・大、中、小で色を変えると、ゴミの多少や、赤は危険信号など一人暮らしのお年寄りの危険も察知しやすくなる。 ・ゴミは全ての人が出す物。 ・色はその人の心理を表しているのではないか？ゴミ袋の色を選べるようにすると、ゴミ置き場がカラフルになりだけでなく、体調不良等も色に表れて、変化を見つけやすいのでは？ ・車に乗れない人の生活範囲は狭い。小グループ(近所)での活動も大切。 ・多治見の中で小地域に分かれて活動されているようであるが、適正な活動区域はどれくらいの単位か？ ・県人会、出身地会等の集まりで、高齢者のやる気を出させる。 ・高齢者と障害者など区分すること自体が失礼にあたるのではないか？ ・サロン事業について その集会場所へはバスが廻るのか？車に乗れない人の対応として・・・ ・気軽に、少しの時間でも参加できるボランティアがあっても良いのでは？ 駅前で電車を待つ間に手話や点字を一つ覚えられる等。 ・夢は？今・昔。実現する手だて。自分で稼いだす。生涯学習を遡り、実現する過程にする。 ・駅前等で少しのボランティアを積み重ねて、貯金して発表。 ・おじいちゃんおばあちゃんの合コン。おしゃれになるし、1人+1人=2人以上の満足度 ・駅前のガーデニングを得意な人が集まってコンテスト 		
まとめ1欄 挨拶は人との繋がり第一歩。ゴミは全ての人が出すため、ゴミ出し時は大切な挨拶の場となる。ゴミ袋の色をカラフルにし、外から見て心理状態を表す。その色をきっかけにして、会話の障壁を下げる。	投票	5
まとめ2欄 車に乗れない人の生活範囲は狭い。人によって生活の活動範囲が違う。	投票	4
まとめ3欄 ボランティアの方法の工夫	投票	5
残したい意見欄 おじいさん、おばあさんの合コンの提案	投票	15

取りまとめシートの内容「討議テーマ2」

Fグループ	久保 酒井 早川 中島 馬場 宗田
討議テーマ 障がい者、高齢者等を地域で支えるためには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報を有効利用するシステム化 ・人を活かすシステム化の構築 ・年齢で括るのではなく、個性で分ける ・高齢者コミュニティーを市の中心に、周辺の持ち家を次世代に移すシステムを行政で行う ・高齢者の活躍場所を作る ・サービスの情報を明確にし、公開(コミュニティーバス) ・サービスや活動の情報を浸透させる ・障害者・高齢者のコミュニティーの場をもっと提供する ・個人個人で積極的な行動で「おせっかい」してみる ・おせっかいでも手をさしのべる積極性を持ってボランティア精神とする ・積極的にかかわっていく(お互いに) ・近隣の付き合いにおいてお互いのカベを取り除き、「助けて」と言える関係を作りたい ・コミュニティーバスを増やすよう市に働きかけ出来ないか ・コミュニティーバスはコースにおいて区間限定で手を挙げれば乗降が自由なバスの運行が考えられないか ・コミュニティーバスの運行 ・福祉に一番大切なものは町内の「おせっかい」だと考えます(障害者、高齢者、子供) ・高齢化による脱クルマ化を街システムで推進する 	
まとめ1欄 「おせっかい」というコミュニティーの場をつくる	投票 11
まとめ2欄 高齢者、障がい者の使いやすい自由な移動手段を提供する(コミュニティーバスの充実)	投票 8
まとめ3欄 サービスの情報を公開し、高齢者の活躍場所を提供する	投票 9
残したい意見欄 高齢者をコミュニティーの中心に、周辺の持ち家を次世代に提供するシステムを行政で行う	投票 17

取りまとめシートの内容「討議テーマ2」

Gグループ	宮島 春田 小野木 渡辺 太田 秋田
討議テーマ 障がい者、高齢者等を地域で支えるためには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとに公民館や集会所の使用をもっと活用する。 ・町内で高齢者などを保護する。見守るなど。 ・高齢者(独り暮らし)の方を孤独にしない。ボランティアなどの仕事が出来、地域との交流が多く出来るよう公民館、集会所の活用。 ・公民館、集会所の利用状況を調査し、有効利用する。 ・情報を知るために、活動できる内容を開示するために、集会所、公民館を活用する。 ・福祉司、民生委員、児童委員、ボランティアなどが、より密接につながりをもって効果的に機能するように集まりをもったらいかがか。 ・多治見市の公共財産である小・中学校の空き教室などを利用し、未整備の地域福祉協議会を立ち上げる。 ・町内会内でのボランティア作り。障がい者、高齢者を支える。 ・定年後、半強制ボランティア。集会所内で。 ・年齢、経験に応じた知識、技能、役割を気軽に知れる場を作る。 ・高齢者、障がい者・児、子どもの横のつながり、交流の場が必要。 ・60才以上の方に得意なこと、できることを登録し、シルバー人材を強化し、活躍していただく。 ・グループホームが進む高齢化社会は時代の必然だと思う。だとしたら、市・福祉協議会は、その効率化を求めて行政を進めるべき。 ・地域、町内単位で公民館などにボランティア登録をし、高齢者の方が簡単、手軽に利用できるシステムを作る。(班長さんに電話一本で頼めるとか・・・) 	
まとめ1欄 市の公共財産、公民館、集会所等を有効利用できる調査を願い、福祉活動を行える場所を明確にする。	投票 <p style="text-align: center;">9</p>
まとめ2欄 地域、町内単位でボランティア登録を行い、高齢者の方が利用しやすいシステムを作る。また、高齢者の方自身も活躍や交流できる場を作る。	投票 <p style="text-align: center;">16</p>
まとめ3欄 障がい者の方が参加しやすく、活用できる、行事や、ボランティア活動に参加できる機会を増やす。	投票 <p style="text-align: center;">11</p>
残したい意見欄 グループホームが進む高齢化社会は時代の必然であると思う。福祉協議会は、その効率化を求めて、行政を進めて欲しい。	投票 <p style="text-align: center;">4</p>

取りまとめシートの内容「討議テーマ3」

Aグループ	伊藤(敏) 伊藤(大) 河村 酒井 渡辺	
討議テーマ 安心して子育てを行える,思いやりのあるまちにするためには？		
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の主婦に内職あつせん ・専業主婦への子育てをしながらできる内職を、行政は優先的に広報する ・小さい子供を家でみながらできる仕事を紹介してほしい ・交通安全の立場から小さな子供がいる家を旗、布等で知らせることを行政は指導する ・地域内の交通安全パトロール 登校→下校時 定年退職者 ・子供のいる家には飛び出し注意を ・安全=安心 ・飛び出し注意マークを作る ・子供を育てる=子供の安全を守る ・多治見市独自の目的税 ・子育て援助資金 ・子育て支援基金を作る。目的が明確ならお金が集まりやすい ・子育ては家の中だけではできない。家族ができることと地域(家族以外の人)ができることがある。 ・地域での『しつけ』 ・キレイな街造り ・『孫はかわいい』と皆口をそろえて言う。おじいちゃんとおばあちゃんの力を活用する 		
まとめ1欄 専業主婦への子育てをしながらできる内職を、行政は優先的に広報する	投票	14
まとめ2欄 子どもの交通安全を見守る。小さな子供がいる家を旗等で知らせる	投票	5
まとめ3欄 子育ての目的税を創設する。(多治見市の目的税)	投票	6
残したい意見欄 地域のカミナリ親父(おばさん)を増やす。近所の登録制のおじいちゃん、おばあちゃんの力を活用する。	投票	12

取りまとめシートの内容「討議テーマ3」

Bグループ	伊藤 田中(茂) 土本 田中(徹) 國枝 馬場
討議テーマ 安心して子育てを行える,思いやりのあるまちにするためには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・イベントで子供と大人が積極的に関わる ・地域でイベントや行事などの場を作る ・世代間ギャップ解消のイベントを親、子、孫、相互、協力して力を出し合う ・PR不足 イベント ・母親に対して負担が増えてきて家庭内での子育てが手薄になってきている中、イベント事や広場の活動をもっと増やす。 ・母と子でどんどん冒険しよう。経験の多さが幅を広げる ・母と子が共通体験的に知育する機会をもつ(共に育つ) ・見守り強化 ・かわいい子には笑わせ、泣かせ、勉強させろ！『勉強』の見直し ・安全な子育て 登下校→日常的にコミュニケーション ・全ての職場に託児所をつくる ・母親は高齢者をじょうずに使う場所を作る ・多治見は共稼ぎの人のための学校保育時間外のサポートが少ない ・ママ友を作る場をつくる ・行政の補助をより効果的に 母子の居場所おおく(育児ノイローゼ解消) 医療費 ・社会体制、意識改革、企業の子育て支援 父親の参加、育児休業 ・もっと冒険を、強い子作り ・医療費の引き上げ、保育料の値下げ ・母親の負担が多く、ストレスにつながる ママ友を作る場をもっとPR、及び増やす 	
まとめ1欄	投票
母親の負担軽減(医療費、保育費etc)他市町を参考に	12
まとめ2欄	投票
子育てストレスの軽減 ママ友作り、広場 高齢者の経験を活かせる場所作り	14
まとめ3欄	投票
地域のイベント推進 お祭りを親・子・孫みんなで盛り上げる	10
残したい意見欄	投票
強い子作りの冒険(川遊び、ウォーキングetc)	6

取りまとめシートの内容「討議テーマ3」

Cグループ	服部 伊藤 梶田 森 丸山 圓藤 小野木	
討議テーマ 安心して子育てを行える,思いやりのあるまちにするためには？		
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会の指導者の育成(ボランティア等) ・(ひとり暮らしの)老人と遊ぶ ・初めて子育てする人と子育て経験者の交流できるところを増やす ・家で遊ぶ子が多いので外に出られて遊べるように高齢者ボランティアなどを利用を考えてみては ・(地区、町を超えた子ども会)の開催 ・子ども会のネットワークをつくる(行事、方法など) ・子ども会は少人数になっているので市全体で行動したらどうでしょうか？ 指導者がついてようせいしてみてもどうでしょうか ・移動するNPO法人 ・広場の地区巡回 ・子供を育てるときに安心してできるように医療費を全国的に出してほしい ・医療費を中学まで無料にしてほしい ・子供は怪我をするもの。医療費の無料 ・資金的な援助の政策 ・医療費の見直しをし、若い人たちが多治見市に残ってもらえるようにする ・産婦人科を産んだ後も交流の場に ・公園マップの作成。市内のどこに公園がありどんな遊具があるのかわかるマップ。母子手帳配布時にほしい ・外で遊べる公園(怪我してもおこるな) ・公園マップの作成。遊具など情報を載せる ・子供たちが利用できる施設、広場、公園等のマップ作成。PR ・公園整備 ・もっと施設を増やす ・児童館の再利用。子供だけでなく大人も立ち寄れるように ・子供の遊ばせる場所を考えて…児童館の利用ができるようになれば… 		
まとめ1欄 医療費を義務教育まで無料にする。(現在は小学校3年生までしかない)	投票	20
まとめ2欄 子ども会の見直し。※ネットワーク化、人材育成 (子ども会同士でどんなイベントをしているか共有する)※老人と子供との交流	投票	16
まとめ3欄 施設整備(児童館の活性化、公園など)、マップ化(遊具、施設等の紹介)	投票	13
残したい意見欄 産婦人科の活用(産前・産後の交流の場に) 移動する子育て場をつくる	投票	4

取りまとめシートの内容「討議テーマ3」

Dグループ	太田 早川 橋本 安藤 秋田 渡辺 林	
討議テーマ 安心して子育てを行える,思いやりのあるまちにするためには？		
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園の数を増やして子育てをしやすい環境を作してほしい ・世代を超えた遊びの知識を教えてくれるボランティアがあればいいと思う。 ・子どもだけボランティア登録→情報を公開 ・移動託児所 ・子育てボランティアに安心して参加できるシステム(子供のケガ等の対処) ・まんまあーる広場を市内にもっと広げてほしい。 ・子育て応援ボランティアグループ作り。参加者をさがす。 ・安心して遊べる公園の整備(清潔な砂場、危なくない遊具) ・多くの子どもが外でも屋内でも遊べる環境が欲しい。 ・公園の遊具をもっと増やしてほしい。市内では、太平公園が遊具があるほうだが、もっと多くの公園で充実させてほしい。 ・ベビーカー(自転車)がスムーズに移動できる街づくり ・学童保育金額を下げしてほしい ・子どもを預ける場合、安心してまかせられる条件(保険、場所等)を整備しておく ・父親の相談会の実施 ・連休に「代理おじい・おばあちゃんち」に泊まろう旅行。親とあずかる方との希望日数や時間など合うように(なるべく近所で) ・近所・育児が終わる方と、育児中の方とのホットライン連絡が取れるように 		
まとめ1欄 子育て応援のボランティアグループ作り。 (子どもの代理おじいちゃんおばあちゃん、一時預かり)	投票	16
まとめ2欄 安心して遊べる環境の整備。(公園、公民館など)	投票	6
まとめ3欄 ベビーカー(自転車)がスムーズに移動できる街づくり。	投票	10
残したい意見欄 学童保育の金額を下げしてほしい。(名古屋市は無料)	投票	3

取りまとめシートの内容「討議テーマ3」

Eグループ	四方 浅井 野原 中島 宮下	
討議テーマ 安心して子育てを行える、思いやりのあるまちにするためには？		
<ul style="list-style-type: none"> ・結婚・子育て前の若者に子どもと関わる機会を。 ・子供を育てる楽しさ→教育 ・子育てを始める前に子どもとのふれあえる場所 ・学生など若い世代が地域の子供と接する機会があればよい ・予防接種へ行く等子どものために足を運ぶ時に、コミュニティーの情報が目につくようにする ・子育てサークルの充実(地域単位、全域) ・子育て情報の提供、相談場所を明確にする ・予防接種を受ける時など必ず母親が見る場所に情報を提示する ・まんま〜る広場の土日開催日の増加 ・広場の小単位での開催(町内レベル) ・地域・広域単位でのコミュニティーの場。(誰でも参加出来る) ・高齢者の集まる場所を子どもが集まる場所の近くに設ける ・学童保育期間の延長 ・保育施設の増加充実 ・親子が集まるコミュニティーを行政にある程度しくみを作って欲しい(民間だけでなく) ・医療制度の拡充[安心の子育て) ・医療関係・保証の充実 ・医療・教育など近隣地域と比較して多治見市に住みたいと思える制度作り 		
まとめ1欄	投 票	
医療制度の充実 医療費免除期間の延長		14
まとめ2欄 結婚・子育て前の若者に子どもと関わる機会を設ける。 学童保育指導員や子育てサークルのスタッフに学生等の若者を活用する。	投 票	10
まとめ3欄 必ず母親が見る場所でのコミュニティーの場の情報を。 予防接種の機会等に。	投 票	5
残したい意見欄 有識者の母親への支援 学童保育域間の延長(小学4年生からも)	投 票	5

取りまとめシートの内容「討議テーマ3」

Fグループ	小島 宮島 市橋 久保 水野 森川
討議テーマ 安心して子育てを行える,思いやりのあるまちにするためには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・【実態】子育ての実態は様々であり、当事者でないと干渉しづらくなっている ・【家族】託児の責任は親が責任を持つ考え方で幼児託児支援所を利用すべきでは？ ・【家族】核家族で世代を超えたふれあいが無い→知恵袋隊！！ ・【まんまあ〜る】まんまあ〜る広場の様な所をもっと増やし、曜日も限定せずに毎日開くようにする ・【行政】(子育て支援)・児童委員・青少年委員などはイベントだけでなく具体的に何かの仕事をすべき ・【行政】行政の縦割りが問題だ(幼稚園と保育園の間) ・【地域関連】地域の交流の場があれば相互監視の目が届くのではないか ・【地域関連】イベントによる地域活性化が子育てにつながる ・【地域関連】子供会とかの役目は重要 ・【地域関連】街でのイベントは重要 ・【地域関連】旧街並には地域力が備わっている ・【地域関連】地域のイベントが減り、つながりが減っている。盆踊りとかが重要。 ・【地域関連】他人の子供に干渉しづらい状況がある ・【地域関連】子供に対して注意しづらい気持ちがある ・【地域関連】子供見守り隊のようなパトロールしか支援法がない 	
まとめ1欄 イベントや学校行事を通じて地域力を高める(盆踊り、ラジオ体操への住民参加、歩け大会等)。	投票 7
まとめ2欄 核家族に対応して地域の知恵袋隊(知恵の老人の方々)の支援。	投票 8
まとめ3欄 「まんまあ〜る」の活動強化(拠点の増。毎日の開催。)	投票 2
残したい意見欄 行政が子供目線に立ってなく問題だ！！(幼稚園と保育所の一体化)	投票 8

取りまとめシートの内容「討議テーマ3」

Gグループ	春田 神野 林 白石 福山 宗田	
討議テーマ 安心して子育てを行える,思いやりのあるまちにするためには？		
<ul style="list-style-type: none"> ・各地域で医師・保育士・先輩ママ・お年寄りの知識を得られる機会を多くする ・子育て経験者による若い母親への支援（例:知識） ・交流場所、機会を多く作る ・地域の児童館で、親子で参加できるクラブを作ったり、子育て相談のできるスタッフを配置して支援する ・児童館の利用を活発にしていきたい。高齢者・経験者の取り込みで経験を生かす様にする ・児童館、公民館などの施設において、未就園の子供も含めて支援出来る体制を作る ・年代の異なる世代間交流を進める(シルバー人材センターなど) ・NPO法人まあーの支援・拡充 ・地域で子育てという意識 ・小学校の空き教室をうまく利用して幼児から児童までが見られる現場を作る ・子供は「皆の宝」「皆で育てる」を啓蒙し続ける ・病院近くを子育て特区の形で安心感 ・住宅1棟を夜泣きOKの棟にし、下に保育資格のある人を、低料金で住んでもらう(看護でもOK) ・中心部の若夫婦と郊外の戸建ての広い家とを交換してマッチングさせる→互いに交流できる可能性も ・<行政に対して>保育所(延長・病児)の増設。学童保育所の利用金額の均一化 ・駅の空間を利用して託児施設を作る ・シルバー人材センターで保育者を募集して託児所の人材にあてる ・駅前に子供預かりの一時施設を作る ・働くお母さんを支える環境を作る(include制度) ・親になる前に出産現場に立ち会う。高校生など、プライバシーには配慮して(例:さする、話をきく→地域で子育てをしている安心感) ・自分として、虐待児らしい子を発見したら恐れずに対策を考える ・自分として、子育て中の若い人たちにガンバレとエールを送る ・市内里親制度 		
まとめ1欄 子育て経験者<母親、保育士、高齢者(シルバー人材センター)>の知識を得られる場所(児童館、公民館、学校の空き教室)・機会を作る。	投票	21
まとめ2欄 住宅1棟を夜泣きOKの棟にし、下に保育資格を持つ人に、低料金で住んでもらう。	投票	9
まとめ3欄 働くお母さんを支える環境を作る。(例:駅前に子供預かりの施設を作る。)	投票	9
残したい意見欄 学童保育所の利用料金の均一化	投票	11

取りまとめシートの内容「討議テーマ4」

Aグループ	小野木 林 中島 福山 安藤 宗田
<p>討議テーマ 生活環境をよりよくするために、私達に何ができるのか？</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分達のやれる事から始める 行政には大きい事業をもっと積極的に言ってもらう ・公共交通を利用する(1人1人が意識する) ・1人1人が自分のみじかな場所を常にきれいになっているか気をつける(ゴミ置場とか公園とか) ・持ち運び可能な自転車に乗る ・公共交通機関の充実 ・コミュニティバスの路線を充実させ通院・買物等高齢者が助かる様にする ・多治見を走るバスをもう少し路せんを伸す ・公共重視のバス運営 ・もっとコミュニティバスの本線を増やす事も、後路線の拡大 ・公共交通のそく進の為にピーアール活動をして利用者を増やす ・都市計画で中心だけにするなら、自動車侵入地域として人が歩きやすくする ・都市計画 中心にまとめるだけでなく、災害の面を考えて地域を1つのコミュニティとして成り立つ町づくり ・都市計画にあたり、他県に無い魅力的な物を作る ・市鳥・市花・市木をもっと周知させる ・市の都市計画を広報する。(目的・効果・改善点) ・地域計画制度見直しをしてほしい もっと各地区に色々な物(店)が有った方がいいと思う ・田んぼを1つの緑化として考え、市民が先にお金を出し、育ててもらいます。農家も喜び、緑化も、教育の ・学校教育の中で鳥や花、木などに興味を持たせる ・公園の芝生には入れない、でも安全に思いきり遊び、緑化対策にもなる芝生に足を踏み入れる公園 ・統一された緑化計画を立て公表する ・広告設置にルール 設置時に搬去の費用のプールで放置しない 	
<p>まとめ1欄 <公共交通機関の活用>・歩ける人は歩く。自転車に乗れる人は乗る。 バスに乗れる人はバスに乗る意識。</p>	<p>投票 3</p>
<p>まとめ2欄 独自の都市計画を作る ・コミュニティバスの路線拡大</p>	<p>投票 10</p>
<p>まとめ3欄 <緑化> ・植樹にストーリーを持たせた緑化管理(桜並木など)・教育の中で 市の花や木に親しみを持たせる</p>	<p>投票 16</p>
<p>残したい意見欄 広告設置にルールを→設置時に搬去の費用を収め、放置させない</p>	<p>投票 3</p>

取りまとめシートの内容「討議テーマ4」

Bグループ	宮島 丸山 渡辺 森川 久保 河村 橋本
<p>討議テーマ 生活環境をよりよくするために、私達に何ができるのか？</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・(良い環境に関する)新しい市のイメージを作り、それを推進していく。 暑い→クールビズ ・暑い町からクールビズの発展。クールビズの特徴を売りに。 ・ゴミ捨てに罰則条例を作してほしい。(空き缶、フンなど) ・モラル教育。モラルを高めよう。ゴミ、タバコ吸殻禁止条例を！ ・自然を取りもどそう。(公園整備をもっと進める) ・地域の公園などの植木等が伸びすぎている所を整備、管理してほしい。害虫で枯れた木も一緒に取り除いてほしい。 ・緑化に向けて家の芝生を推進補助。芝刈りなどはシルバー人材の活用で高齢者の活動向上。 ・(公共レンタル、電動アシスト)をすすめ、サイクリング道路を作り自転車からの転換を。 ・移動手段のため電動自転車をレンタルをしてほしい。 ・先に、自転車道、歩道の整備し、公共交通機関に電動アシストの準備してみては。 ・多治見市の要所に安全に行けるように自転車道の整備 ・公共交通が中心地だけより外周地にも利用しやすく公共施設だけでも回れる巡回バスがほしい ・バス接近メール情報。希望のバス停登録 ・メールマガジン等を利用して市の情報を伝える。(公共交通機関、観光情報、助成金など) ・うながっばうちわの配布が今年も計画されていますが、壊れやすくその後はゴミ？今年東日本大地震寄付に10円以上で配布にしてはどうか ・公共交通ガイドブックの入手方法を公報でPRしてほしい。公報配布は月1回でもいいのではないかと耳にします。一度賛否をうかがってほしい ・市の清掃日に庭木を切って出せるようにしてほしい ・街路樹は大木になる楠の様な手入れが多くかかる木を選ぶのは不向きではありませんか？木の選定は業者任せですか？中低木を選ぶのが望ましいと思います。 ・病院の整備 	
<p>まとめ1欄 自転車道の整備、サイクリングロード等 自動車主体からの転換をする。 (電動アシストレンタルサイクルの貸し出し)</p>	<p>投票 15</p>
<p>まとめ2欄 モラル教育を進める ゴミ捨てに対して罰則を！ (空きカン、ペットボトル、犬のフンなど)</p>	<p>投票 11</p>
<p>まとめ3欄 良い生活環境に関する新しいイメージする 例え：日本一熱い街→日本一クールビズの進んだ街</p>	<p>投票 12</p>
<p>残したい意見欄 大木等大きな庭木を市の清掃日に出来るようにしてほしい。 バス接近メール情報</p>	<p>投票 5</p>

取りまとめシートの内容「討議テーマ4」

Cグループ	秋田 浅井 伊藤 市橋 田中 早川	
討議テーマ 生活環境をよりよくするために、私達に何ができるのか？		
<ul style="list-style-type: none"> ・行政に寄りかかるより、自分に何ができるか ・街をきれいにする意識が大事で、そうした意識改革が必要 ・道路清掃を毎日している高齢者がいるので表彰制度を ・248号線の渋滞解消等に投資するのではなく、知恵と工夫を ・グリーンカーテン活動を充実する ・教育——体験学習の充実——ごみの取り扱い ・環境問題は子供の頃からの教育で関心を持ち、家庭内で実践していく ・ごみを出さない工夫 ・食糧を余らせない料理の工夫 ・エネルギー問題 節電について ・大気汚染 ・生活排水 ・騒音 ・市の行政で色々な取り組みがあるが知らなかった ・生垣・庭を作ると補助金が出ることを行政から分かりやすく市民に周知してほしい ・生活環境の方向性を行政で出してほしい ・ソーラーパネルの普及 ・太陽光設置補助の強化 ・段差のない自転車道路がほしい(陶彩の路のような) ・バリアフリー推進 ・道路などのバリアフリー化 ・道路のバリアフリー(自転車が乗りにくい) ・自転車をもっと利用したいけれど、安心して走れる場所が少ない ・土岐川の堤防に桜を植えられないか 		
まとめ1欄 住民の意識改革:近所のゴミ拾い グリーンカーテン活動 子供の教育 (もったいない精神など)	投票	18
まとめ2欄 行政の方向性のPRの充実(公共交通ガイドブック 緑化計画 都市計画) ……ロコミする	投票	11
まとめ3欄 道路のバリアフリー化——→自転車利用の促進(マイカーの自粛)	投票	8
残したい意見欄 土岐川の堤防に桜を植えたい……記念樹活動	投票	18

取りまとめシートの内容「討議テーマ4」

Dグループ	服部 伊藤 土本 水野 神野 馬場
討議テーマ 生活環境をよりよくするために、私達に何ができるのか？	
<ul style="list-style-type: none"> ・個人 各家庭単位の緑化コンクール等があったらどうか？ ・一般家庭のお花コンクール ・幼児、小・中学生に生活環境をよりよくするための教育をする ・庭等で、緑を増やせるためにガーデニング教室みたいなのをして、緑を増やせるようにする ・補助金制度について市への住宅申請時とかに市から『〇〇補助金制度もあるので参考に』みたいについでにPRしてくれれば皆が知ることができるのでは？ ・行政から市民への生活環境PR(ガイドブックetc…家庭に一冊有るとよい) ・企業での駐車場に緑化の義務付けする ・コミュニティバスの路線を延長する ・バスの本数を増やす(たくさん利用していく) ・公共交通機関の充実(コミュニティバスも)*乗る人が少ないから本数を減らすのではなく乗る人を増やすための充実 ・文化的環境の充実(シネマ・モールを含める)東濃の中核都市として全体的環境整備を行なう ・都市生活が自然環境好転へのさきがけとなる ・全市民と一緒に3年以内に『日本一暑い町』で無くなるための努力をする 	
まとめ1欄 環境向上のための教育とイベント(・学校での教育・ガーデニング教室・一般家庭のお花コンクール・企業の駐車場緑化)	投票 10
まとめ2欄 行政の環境政策の具体的PR(・窓口での申請内容に付随する情報の提供・各種ガイドブック各戸配布)	投票 12
まとめ3欄 公共交通機関(バス)の充実(・コミュニティバスの増発延長・文化的環境の充実(シネマ・モール)によって中核都市活性を図る)	投票 8
残したい意見欄 『日本一暑い町』の返上をスローガンとして上記を実行する	投票 4

取りまとめシートの内容「討議テーマ4」

Eグループ	林 田中 太田 酒井 春田	
討議テーマ		
<ul style="list-style-type: none"> ・市内(地域)で各高等学校への巡回バスがあれば良いな！ ・県立高校への朝定期バスを走らせる ・県病院、市民病院への道路の整備・改善 ・愛岐道路から土岐川に県病院への橋を掛ける ・(県病院や市民病院に)愛岐道路から土岐川に橋を作り直接入れるようにする、又19号を拡張して入れるようにする ・渋滞緩和の為に商業施設を分散する ・市内バスの小型化、低熱料(燃費)化などの工夫で、バス代を安くして本数を増やし利用者を増やす(通勤・通学者にターゲットを絞ったバスの運行) ・公共施設への道路アクセスが悪い(狭い)、駐車場が無い ・利用者に特化したバスの運行 ・コミュニティバスの運行 ・スーパーより大型な店舗が欲しい 		
まとめ1欄	投 票	
渋滞緩和の為に商業施設を分散する		8
まとめ2欄 緊急車両又は病院(県・市民)利用者の為の道路整備をする 愛岐道路から県病院へ橋を掛ける	投 票	17
まとめ3欄 各高校への送迎バスを運行させ、朝・夕の渋滞回避を図る	投 票	7
残したい意見欄 スーパーより大きなショッピングモールが欲しい	投 票	12

取りまとめシートの内容「討議テーマ4」

Fグループ	圓藤 宮下 白石 古田 梶田 國枝 四方
討議テーマ 生活環境をよりよくするために、私達に何ができるのか？	
<ul style="list-style-type: none"> ・日本一暑いをアピールして、ミストシャワーや打ち水等、行事を行う。 ・暑い町サミット。 ・暑さ対策のための緑化。 ・ミストシャワーの取り付け。 ・うながっぱを使った緑化につながる何か。 ・材木等ゴミの廃棄緩和。 ・ミスト機器の設備。 ・緑のリサイクルの日の設定。資源として回収→たい肥に。 ・植木の回収方法の変更。 ・地域に緑化の管理をまかせる。 ・山林の手入れ。 ・電車とバスの時刻の同期。 ・バスの時間帯、数を見直す。(電車と結びつける) ・公共交通の時間、アクセスの向上。 ・自転車の利用しやすい社会を作って欲しい。 ・駐輪場の充実。 ・休日のマイカー利用を自粛する。 ・車に乗らないで近場なら歩く。 ・節電、エコを心がける。 ・節電コンクール(～%)自己申告で。 ・プールを作れ！！ 	
まとめ1欄 日本一暑い町をアピール。・暑さ対策・サミット開催・ミストシャワーの設置・プールを作る。	投票 6
まとめ2欄 木材ゴミの廃棄の緩和。・資源として回収→たい肥。・回収方法の変更(曜日を決めトラックで回収)・山林の手入れ。	投票 13
まとめ3欄 公共機関の整備。・駐輪場の拡大・電車とバスの発着時刻のつながりをよくする。・自転車の利用がしやすい町作り。	投票 11
残したい意見欄 節電コンクールをしよう！(節電、エコの意識づけ)	投票 10

取りまとめシートの内容「討議テーマ4」

Gグループ	小島 伊藤 森 野原 渡辺 伊藤
討議テーマ 生活環境をよりよくするために、私達に何ができるのか？	
<ul style="list-style-type: none"> ・月に一度、車の乗り入れ禁止日を設ける(ノーカーデーの日を作る) ・自動車以外の自転車、歩行による移動を増やす(道路は無理でも歩道の整備をして欲しい) ・個人の意識改革(通勤時の乗合わせとか自転車通勤) ・渋滞対策として通勤時間の分散化をすすめる ・車の渋滞を解消するために広報等で電車、バスの積極利用を呼びかける ・地域住民の生活道路、地域の人を優先させて欲しい(抜け道として使わないようにして欲しい) ・歩道を作る ・コミュニティバスの路線拡大 ・商店街と契約して買い物ツアー ・コミュニティバスの増設、増発(乗り入れ商業施設からの収入による) ・バスの無料化(負担を商店街に持ってもらう) ・ビル等の屋上の緑化の義務付け(補助金を出す) ・ビル建物の屋上緑化の義務付け ・緑化制度について庭木等の管理するのに困っている ・市の土地で多目的設備をつくる ・土岐川でバーベキューをできるようにして欲しい ・郊外の土地に巨大商業地をつくる ・公園の整備 ・商業、住居の住み分けを見直して欲しい(高齢者より) ・運転代行が3時までしかない、5時までにして欲しい ・タクシーの運転手の運転が荒い(空車でもみんな見てる) 	
まとめ1欄 交通手段の意識改革(・ノーカーデーの採用・自動車以外の乗り物の活用・歩道の整備)	投票 7
まとめ2欄 コミュニティバスの増設、増発(商店街のチャーターバス(タイアップ))	投票 7
まとめ3欄 屋上緑化の推進、義務化(庭木処理の無料化)	投票 8
残したい意見欄 土岐川でB・B・Q(・公園の整備・映画館が欲しい)	投票 12

第3章 たじみ市民討議会の検証と評価

I. たじみ市民討議会の有効性

たじみ市民討議会は、参加者の無作為抽出や参加者への謝礼の支払いなど特徴とするドイツの市民参加の手法であるプラヌンクスツェレに学びながらも、今回多治見市において実施するにあたり、市との協定の締結や社団法人多治見青年会議所による企画・運営など、さまざまな工夫を行った。

今回のたじみ市民討議会の効果と手法について検討と評価を行った結果、その有効性が明らかになった。（検証と評価の詳細は第3章IVに記載）

今回の取り組みの最大の成果は、新たに実行委員会を立ち上げ、またたじみ市民討議会への参加を承諾し、素晴らしい話し合いと質の高い提案を行った市民に出会えたことだといえる。

1. 効果のまとめ

検証・評価の結果、次のとおり、たじみ市民討議会の効果が明らかになった。さらに、参加を承諾し、あるいは都合がよければ参加したいという市民が予想を超えて多数あり、多治見市においては、この手法を継続して実施できる条件を備えていることが証明された。

(1) 質の高い提案

参加者の質の高い話し合いにより、話し合いの結果である提案の内容が、市民や地域で実施すべき課題と行政で実施すべき課題とが区別されており、それぞれ実現可能性が高いものとなっている。このことから、多治見市の施策に反映すべき内容を備えた質の高い提案が期待できる。

(2) 参加者の高い満足度

参加者アンケートに示されるように、たじみ市民討議会の参加者の93%が参加してよかったと回答している。また今後、市民討議会や他の市民参加の試みに参加したい、および都合があれば参加したいという参加者が100%であったことから、今後この取り組みを継続することが期待される。

(3) 参加意識の高まり

参加者アンケートにおいて、「自分たちの住んでいるまちは、やっぱり自分たちで変えていかなくってはならないんだと思いました」「ボランティアを出来る範囲で行おうと思います」などの意見が多数寄せられた。このことから、たじみ市民討議会の取り組みにより、自分たちのまちは自分たちがつくるという自治意識が高まったといえる。

(4) 参加を承諾した市民の多さ

無作為抽出により、1,000通参加依頼書を送付し、59人という多数の市民から参加の承諾を得たため、多治見市においては、たじみ市民討議会による市民参加の手法の実施が今後も可能であるといえる。

2. 手法のまとめ

「多治見版」プラーヌクスツェレであるたじみ市民討議会の実施にあたり、さまざまな工夫を行った。その結果、プログラム設計、実施における協定、運営組織、スタッフ、無作為抽出による参加者募集や参加者への謝礼、広報、中間報告会など、あらゆる面において、概ね評価できるものとなった。

また、昨年、一昨年の市民討議会に参加された一般市民の方が11名実行委員会として企画・運営に参加していただき、本年度からは実行委員会の市民の中から実行委員長を選任した事により市民参加の手法として評価できるものとなった。

II. たじみ市民討議会の手法の特徴 ～プラーヌクスツェレとの比較で～

たじみ市民討議会は、ドイツの市民参加の手法であるプラーヌクスツェレに学びながらも、今回多治見市において実施するにあたり、さまざまな創意工夫を行った。その特徴は、次のとおりである。

1. 実施に関する協定の締結

たじみ市民討議会は、明るい豊かな社会を築くこと目的とした(社)多治見青年会議所と、市民参加と協働のまちづくりを推進する多治見市とが、たじみ市民討議会の実施およびその手法の効果の検証・評価に関し、(社)多治見青年会議所と多治見市との間の関係や役割分担、相互協力の内容などを定めるため、2011年5月に「Heart of Tajimi-たじみ市民討議会2011-」の実施に関する協定書を締結し、協働で開催した。(プラーヌクスツェレでは行政機関と大学研究所等との委託契約により実施する。)

2. (社)多治見青年会議所と多治見市と市民による企画・運営

たじみ市民討議会の企画・運営(テーマ設定を含む)は、(社)多治見青年会議所、多治見市と実行委員会(昨年、一昨年の市民討議会参加市民)によって行われた。その構成は、(社)多治見青年会議所、多治見の力推進委員会14名と多治見市役所職員で5人と実行委員会11名である。(プラーヌクスツェレでは、行政機関がテーマ設定を行い、当日のプログラムの企画や運営は受託者が行う。)

3. 完全無作為抽出による参加の呼びかけ

たじみ市民討議会では、20歳以上の市民を対象に無作為抽出を行い、1,000人に参加依頼書を発送した。この無作為抽出の手法は、プラーヌクスツェレと同様であり、国内では全国に先駆けて(社)東京青年会議所千代田区委員会によって行われた手法である。

締め切り日までに送られてきた参加者承諾書は59人となり、当初予定していた参加者数50人を上回った。(当日参加者数は45人)

4. 話し合いの方法

話し合いの方法は、プラーヌクスツェレとほぼ同様である。その特徴の1点目は、1グループ6、7人の単位で、全部で7グループが同時に話し合いを進めたことである。小人数のグループ分けは、話し合いを行う場合に黙っている人が少なく、話し合いのテンポを上げるためである。2点目は、意見の偏りを防ぐために、テーマごとにグループのメンバーが入れ替わり話し合うことである。3点目は、グループの話し合いにより出された意見をグループ内で3つ以内にまとめることである。4点目は、各グループの代表者により発表が行われ、全体の意見の傾向を見るために、グループでまとめた個々の意見に対して参加者が投票を行うことである。

5. 参加意欲を促す工夫

たじみ市民討議会は、多治見市において昨年が続いて3回目の取り組みであり、市民に知られていないものであった。そこで無作為抽出による参加者を集める工夫として、2つのことを実践した。第1はPRにさまざまな手法を用いたことである。ポスターの配布、広報たじみでの案内、(社)多治見青年会議所と多治見市のホームページでの案内、新聞・テレビへのプレスリリースなどを行った。第2は参加依頼書にも工夫を凝らした。封筒の中の書類枚数は最小限にし、主催者を記載するとともに、市民討議会の内容を分かりやすくチラシ風に作成し、必ず見てもらえる工夫をした。

6. 検証と評価

たじみ市民討議会という手法を、今後の市民参加や協働の取り組みにいかすために、参加者へのアンケートやたじみ市民討議会の実践を踏まえ、(社)多治見青年会議所でこの手法の効果の検証と評価を行った。検証と評価にあたっては、評価できる点、改善すべき点などについて具体的に検討した。その結果については、本報告書の第3章IVの検証と評価に掲載している。

たじみ市民討議会2011とプランクスツェレの手法の比較

	たじみ市民討議会	プランクスツェレ
主催者	(社) 多治見青年会議所、多治見市 (実施における協定)	ヴタパール大学・市民参加手法研究所など *行政機関からの委託を受けて実施
テーマの設定者	(社) 多治見青年会議所、 実行委員会	行政機関
テーマ	「支えあうまちづくり」 ～高めようタジミストの絆～	都市計画、交通対策、住宅計画、 社会政策、消費者の保護対策のガイドラインづくりなど
参加者の選出方法	無作為抽出	無作為抽出
参加者の対象年齢	20歳以上	18歳以上
参加者数	45人(6、7人×7グループ)	25人(5人×5グループ)
謝礼の有無	有	有
開催日数	2日間(計4回の話し合い)	4日間(計16回の話し合い)
1回の話し合い時間	60分 (情報提供は含まない)	90分 (情報提供を含む)
話し合いのための情報提供	有	有
進行役	各グループに補助係を2名配置 (話し合いには加わらない)	全体で2人の進行役を配置 (話し合いには加わらない)
話し合い結果の行方	市民提言	市民答申

(参考) ドイツの新しい市民参加「プランクスツェレ」

(篠藤明徳、地域社会研究第11号プランクスツェレ特集号所収)

7. 当日のスタッフの役割

市民討議会の実施にあたり、万全を期すためにたじみ市民討議会当日のスタッフを多く配置した。当日のスタッフとして、補助係、タイムキーパー、全体進行係（司会）、受付などの係を置いて実施した。（プラumnクスツェレでは、より少人数で実施している。）

（1）補助係

参加者が話し合いを進める際に、進め方やねらいの説明や、参加者の話し合いが行き詰まった時に話し合いのサポートをする役割（1グループに2人配置）。なお、話し合いには加わらない。

（2）タイムキーパー

時間を伝える役割

（3）全体進行係（司会）

集合時間など参加者全員に案内を行うため、館内放送をする役割

（4）受付

参加者・オブザーブ・情報提供者・報道関係者の受付、昼食用の弁当の配布その他庶務全般を行う役割。

（5）その他

運営・進行責任者・案内係・カメラ、ビデオ係など

たじみ市民討議会 スタッフ係一覧表

番号	担当	人数	番号	担当	人数
1	主催者・責任者	1人	9	カメラ係	1人
2	運営・進行責任者	1人	10	タイムキーパー	1人
3	補助係	14人	11	受付	3人
4	司会	1人	12	模造紙移動係	2人
5	会場外案内係・駐車場整理	2人	13	弁当係	3人
6	会場内案内係	2人	14	映像係	2人
7	情報提供対応係	1人	15	備品係	3人
8	ビデオ係	1人	16	計	38人

* 2つ以上の担当を兼務する場合がある。

Ⅲ. 開催準備から報告書提出までの記録

開催準備から報告書提出までの活動は、次のとおりである。

(下表)

日付	時間	活動内容	作業内容
2011. 1. 26	14 : 00～	市民討議会開催に向け市へ共催の働きかけ 及び事業趣旨説明	
2. 10	14 : 00～	多治見市共催の承諾	
2. 24	19 : 00～	第 1 回市民討議会実行委員会 ・市民討議会説明会	
3. 10	19 : 00～	第 2 回市民討議会実行委員会 ・市民討議会スタッフの役割等	
3. 28	19 : 00～	第 3 回市民討議会実行委員会 ・テーマの選定	
4. 7	19 : 00～	第 4 回市民討議会実行委員会 ・テーマの選定	
4. 19	19 : 00～	第 5 回市民討議会実行委員会 ・テーマ選定 (大テーマ・中テーマ)	
4. 28	17 : 00～	第 6 回市民討議会実行委員会 ・テーマ選定 (討議テーマ)	
5. 12	17 : 00～	第 7 回市民討議会実行委員会	参加依頼書封筒詰め
5. 17	11 : 00～	実施における協定の締結 (調印式) 記者発表 (多治見市役所、特別会議室にて)	
5. 19	17 : 00～	第 8 回市民討議会実行委員会 ・当日資料の作成	
5. 26	10 : 00～	第 9 回市民討議会実行委員会 ・情報提供の検討	
5. 31	19 : 00～	参加依頼書返信受領締め切り	
6. 2	10 : 00～	第 1 0 回市民討議会実行委員会 ・当日の流れについて	
6. 4	19 : 00～	会場リハーサル	
6. 8	12 : 00～	参加者に開催案内発送	パワーポイント作成
6. 9	19 : 00～	第 1 1 回市民討議会実行委員会 ・補助係リハーサル ・当日資料作成	パワーポイント修正 備品作成

6.10	13:00～	マスコミへの市民討議会取材の案内	開催案内封筒詰め
6.17	18:00～	最終リハーサル	
6.18	13:00～	本番1日目	
6.19	9:30～	本番2日目	
6.24	19:30～	第12回市民討議会実行委員会 ・中間報告会に向けての準備	実施報告書の作成
7.11	19:30～	第13回市民討議会実行委員会 ・中間報告会に向けての準備	実施報告書の作成
7.22	19:30～	第14回市民討議会実行委員会 ・中間報告会に向けての準備	実施報告書の作成
8.2	19:30～	第15回市民討議会実行委員会 ・中間報告会に向けての準備	実施報告書の作成
8.15	10:00～	中間報告会 提言決定	
8.23	19:30～	第16回市民討議会実行委員会 ・実施報告書の最終確認	実施報告書の完成
8.25	11:00～	提言書提出・実施報告書提出	

IV. 検証と評価

ここでは、参加者へのアンケートやたじみ市民討議会2011の実践を踏まえ、評価と検証を行った結果について述べる。評価と検証にあたっては、評価できる点、改善すべき点などについて具体的に検討し、課題を抽出するとともに、問題解決の方向性を示すこととした。

1. プログラムについて

テーマ設定、プログラム設計、時間配分、話し合いの体制、情報提供、投票に関しては、参加者の話し合いのレベルが高いこともあり、概ね良好な結果を得たといえる。しかし、話し合いのテーマ設定方法および情報提供の内容について、改善すべき課題が残った。

(1) テーマ設定

参加者に興味・関心があり、まちづくりに対して自由なアイデアや議論していただくために(社)多治見青年会議所と多治見市と市民討議会実行委員会でテーマについて検討した。市民の関心の高いまちの課題を抽出するために、市民討議会実行委員会を開催し市民の生の声を聞き、その他の意識調査報告書や地区懇談会での結果を調査した。その結果、現在の市民が求めている、“支えあうまちづくり”をもとに、～高めようタジミストの絆～を大テーマとし開催することに決定した。その後の協議の中で、「支えあうまちづくり」をするためには、「防災」・「障がい者・高齢者」・「子育て」・「生活環境」の4つのキーワードが会議で決まり、①地域でおこなう防災について考える②障がい者、高齢者等を地域で支えるためには?③安心して子育てを行える、思いやりのあるまちにするためには?④生活環境をよりよくするために、私たちに何ができるのか?について話し合っていたこととした。

今後、テーマ選定においては、その時々市民が感じるまちの課題をテーマ選定に反映させるためにも、多種多様な市民を含めた公平・中立な実行委員会を設立することも重要な課題である。

評価できる点	・市民にとって関心の高いテーマであった点 ・市民にとって気軽に議論ができるようにした点
改善が必要な点	・市民から具体的な言葉がでるようなテーマにするなどの工夫が必要とする点

(2) 時間配分

全体の時間や各回の話し合いの時間がどの程度なら市民が参加しやすいかについて議論を重ねた。参加者の年齢が広範に及ぶことが想定され、長時間の開催による参加者離れも懸念されたが、あまり時間を短縮すると話し合いの時間が減ってしまい、満足のいく討議ができなくなることになる。したがって、最低4回の話し合いの回数を確保しつつ、参加者の負担を考慮し、話し合いの時間を60分に決定した。また、全体的な配慮としては、休憩時間を定期的に取り入れたこと。休憩場所も次の討議がスムーズに行えるよう、次の話し合いグループのテー

ブルにてとっていただくよう工夫した。話し合いの時間（60分）についてアンケートでは「ちょうど良い」42%、「短い」58%という結果となった。

評価できる点	・全体的に話し合いの配分は良好であった点
改善が必要な点	・討議回数などを減らし、話し合いの時間を増やすことも視野に入れる必要がある点

（3）話し合いの体制

参加者主体の話し合いを進めるため、ファシリテーター（市民の話し合いの場を仕切り、事前に合意された会議のルールに沿って、円滑に成果へたどり着くよう、会議を運営する役割を果たす人）は置かず、各グループに「補助係」を2名設置し、話し合いの進め方や時間配分などの説明を行うこととした。そして参加者には各グループにおいて「進行係」「まとめ係」「発表係」の役割を担うこととした。

参加予定者は59人であったが、当日の参加者は45人であったため、1グループにつき6、7人で構成した。グループの人数についてアンケートでは、98%の人が「ちょうど良い」と答えている。（「少ない」2%、「多い」0%）

また、経験のある方や年長者など「声の大きい人」だけが発言するのではなく、参加者全員が均等に発言できるよう、テーマごとに話し合いグループのメンバーを入れ替えることとした。このグループ分けについては1日目の受付の段階で、各話し合いごとのテーブル座席表を名札に記入した。このため、席の移動はスムーズに行われた。

「補助係」は参加者に話し合いの方法・ルールを説明するため、各グループ間に違いが生じないように、マニュアルを作成し、何度も模擬ディスカッションを重ねイメージを共有させた。また、参加者が、話し合いをスムーズに進めるための環境づくりとして、「話し合いの流れ」「話し合いのルール」を明記した模造紙を見やすい場所に掲示した。そして、「進行係」「まとめ係」「発表係」のマニュアルを作成し、テーブルの上に配置していつでも確認できるようにしたことで、話し合いのイメージをもってもらえた。

以上のように、いかに参加者全員がスムーズに話し合いに参加できるか、ということに重点を置いてきたが、回を重ねるごとに参加者同士が積極的にコミュニケーションをとり、多くの意見を出そうと工夫する姿が見られ、市民討議会という手法に大きな可能性を感じた。

評価できる点	・参加者の意識が高く、進行がスムーズであった点 ・各係のマニュアルを作成し、話し合いの流れの統一を図った点 ・参加者の主体性を優先した点
改善が必要な点	・名札の工夫が必要な点

(4) 情報提供

情報提供者は、参加者の現状や課題の認知度に差があるため、公平・中立な立場で行う必要があった。今回のテーマに沿って実際に関わりが深く、現状を一番把握しているということで行政担当者また社会福祉協議会やNPO団体の方に決定した。率直な意見、アイデアが出る話し合いをしていただくため、現状までの取り組みの説明と現段階での課題を紹介した。

情報提供者の選定は、その属性バランスを中心になるべく異なる視点からの意見等の紹介となるよう配慮し、実行委員会で協議し決定した。各テーマにおける情報提供は、話し合いのヒントとなるべく経験談や意見の紹介をコンパクトにまとめ、要領よく説明されたわかりやすい内容であった。また、情報提供の時間についてはアンケートで「ちょうど良い」84%「長い」9%「短い」7%という結果になっており、情報提供の時間については問題ないといえる。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none">・話し合いの参考になる内容であった点・事前に何度もプレゼンをして頂くことで、事業紹介にならないようにすることができた点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none">・綿密な情報提供者との事前打ち合わせの実施をする点

(5) 話し合いの内容と投票

当初、各グループの話し合いの結果において、行政に対してのお願いばかりになるのではないかと危惧したが、参加者同士がそれぞれのテーマにおける意図をよく理解し、地域においての課題と行政で実施すべき課題についての討議が活発になされた。参加者の意識が高く、各テーマの話し合いを重ねるごとにそれぞれの役割分担も自然にでき活発な討論となり、議論も深まった。参加者同士のコミュニケーションもよく図られ、すばらしい話し合いとなった。

投票の方法については、各グループで3つの意見と残したい意見にまとめ、参加者全員がシール（1回の投票につき7枚）を使用し、賛同する意見に投票することで、傾向をつかむ方法を取った。また、テーマごとに行うグループの発表はプレゼンテーションの仕方投票が左右する事が考えられるため、3つのまとめた意見と残した意見の読み上げだけとした。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none">・話し合いの内容が充実し、共に行っていくという意見が出された点・プレゼンテーションの仕方において、個人の主観が入らなかった点
改善が必要な点	—————

2. 運営について

実施に関する協定、運営組織、スタッフ、スケジュールについても良好な結果であった。たじみ市民討議会は、(社)多治見青年会議所と多治見市とが実施に関する協定にもとづき、両者が実施した。本年度は(社)多治見青年会議所と多治見市の運営組織に加え、新たにボランティアスタッフとして実行委員会が設立され、運営に参加したことで市民主体の市民討議会に一步、近づいたといえる。

(1) 実施に関する協定

たじみ市民討議会は、2011年5月に(社)多治見青年会議所と多治見市とが実施に関する協定を締結し、協働で開催したものである。

実施に関する協定において、両者の役割と責務を定めたが、(社)多治見青年会議所の役割は、①運営、②広報活動、③報告書の作成、④個人情報の保護、⑤経費負担とし、多治見市の役割は、①広報活動、②参加市民のリストの抽出及び参加依頼、③情報提供、④場所の提供、⑥経費負担、⑦報告書の検討とした。

今回のたじみ市民討議会では、実施に関する協定の締結によって、お互いの役割・責務を明確にすることができたことは評価できる。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none">・実施に関する協定により、(社)多治見青年会議所と多治見市の役割、責務を明確にした点・実行委員会という新たな組織基盤を作り上げることができた点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none">・今後の実行委員会の運営に関する点

(2) 運営組織、スタッフ

たじみ市民討議会の運営組織は、実施に関する協定にもとづき(社)多治見青年会議所と多治見市で行った。プログラム設計や、テーマ設定、当日の運営などは実行委員会と共に協議した。事前準備は6ヶ月前から、打ち合せを重ね本番前にスタッフを中心としたリハーサルやプレ模擬ディスカッションを経たことにより、全く経験のない運営スタッフが参加者の立場で考え運営することができた。

また、本年度は、実行委員会を立ち上げたことで市民主体の市民討議会に一步、近づいたといえる。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none">・実行委員会が市民の立場と行政の立場とを共有できた点・実行委員会が運営のスタッフに加わった点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none">・運営に関する共通理解の構築の工夫の点

(3) スケジュール

今回のたじみ市民討議会の事前準備は6ヶ月前から開始した。ポスターの作成・配布、無策抽出、郵送する印刷物の作成などを考慮すると6ヶ月の準備期間は妥当な期間と評価できる。なるべく早い段階からテーマを決め、当日の情報提供についての選定を行うことも必要といえる。

評価できる点	・実行委員会と共に効率的な連携により効果的に進めることができた点
改善が必要な点	・実行委員会主導とするならば、準備期間に時間的余裕を確保する点

3. 参加者について

今回のたじみ市民討議会の特徴は、「無作為抽出」による市民参加と「参加者への謝礼」であるが、現実的には、さらに「当日の参加人数」という課題が加わる。したがって、この3点を中心に検証と評価を行う。

(1) 無作為抽出方式の人選

たじみ市民討議会終了後のアンケート結果にて、無作為抽出方式については、「無作為抽出はよい手法だと思う」に88%の回答が得られた。自由回答欄においても、「意見が偏らないから」「幅広い年代の意見が聞ける」「これまで関心の無かった人にも関心を持ってもらえる」などの意見があった。

従来の公募型では、元気で意見を持った市民が参加する一方で、普段声を出さない市民の意見を反映させることは難しいと思われる。無作為抽出方式はこのサイレントマジョリティーと呼ばれる市民の声なき声を抽出する手法として有効であったといえる。

また、男女比率、年齢比率、地区等の構成において当初偏りが懸念されたが、当日はかなりバランスの取れた構成になった。

評価できる点	・無作為抽出方式において、支持を得られた点 ・男女比率、年齢比率等のバランスが良好であった点
改善が必要な点	_____

(2) 参加者への謝礼

参加者への謝礼について、アンケートでは「あったほうがよいと思う」79%、「ないほうがよいと思う」14%「その他」7%という回答を得られた。この手法の謝礼の目的としては、①本来であれば仕事である時間帯を割いて参加する市民など、さまざまな条件の人に参加してもらおうという点、②結果や意見に対する責任を負うという点にあった。実際にアンケートの中で、「責任が感じられてよい」といった意見があり、目的を十分に理解していただけたと感じることができた。今回の事例により、有償による市民参加のかたちを提示できたことは評価できる。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・有償による市民参加のかたちを提示できた点 ・自分の意見に対して責任を持っていただけたこと
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・無作為抽出の対象人数の拡大

(3) 参加者人数

たじみ市民討議会を開催するにあたり、呼びかけに対し何人の参加者があるかについては、今後も課題となる。結果として、59人の参加承諾を得られ、当日は45人の市民が参加し、提案を出すことができたことは、新たな市民参加の成果として評価できる。また、アンケートでも「都合が合えば参加したい」が83%と大半を占めていることから、テーマや日程を工夫することで、参加者の増加が期待できる。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの選定についても効果的であった点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢層の絞りこみの点

(4) 参加者の反応

開始早々は参加者にとって初めての手法ということもあり、手探り感が見受けられたが、時間の経過と共に、参加者が積極的に意見を出し合いまとめる姿が見られ、参加者の意識の高さを実感した。アンケートでも、88%の参加者が参加して「よかった」と回答しており、自由解答欄では、「多治見市の課題について再認識できた」「自分から参加できる場を求める事が無かったので、よい機会になった」「まちの良いところや課題が再認識でき、無関心はよくないと思った」などがあり、参加者のまちづくりに対する参加意識が高まったといえる。

参加者が満足感を持って、たじみ市民討議会に参加し、また参加意識が高まることから、今後とも継続して市民討議会を効果的に実施することが可能であることがいえる。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の高い満足度が得られた点 ・市民参加の意識向上が見られた点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の市民参加への関心を今後どの様に繋げていくかを具体的に示す必要性

4. 広報について

広報活動については、ポスターの配布、ホームページで告知、メディアへの対応の3つの手法で行い、その成果は次のとおりである。

メディアの反応	新聞4紙掲載、市報 (Tajimist)
問い合わせ	_____
両日の来場者	見学者 18 人 (他市役所 5 人、一般 13 人)、 報道関係者 4 社

(1) ホームページ

ホームページの広報については、(社)多治見青年会議所と多治見市の双方のホームページで告知した。開催目的のページや「市民討議会とは」という分かりやすい市民討議会の手法の説明をし、ホームページを見る方に分かりやすく、興味・関心をもってもらえるよう工夫した。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者の双方で告知ができた点 ・分かりやすく、関心を持ってもらえるよう工夫ができた点
改善が必要な点	_____

(2) ポスター

ポスターは200枚印刷し、多治見市文化会館やまなびパークをはじめとする公共施設や集客力のあるスーパーやコンビニ等に掲示した。ポスターの内容に市民討議会とはどんなことをするものなのかを写真等で分かりやすく表現するとともに、市民討議会が開催されることを強調し、詳しくはホームページを見て詳細を分かるようにするため、ホームページへの誘導ができる工夫をした。昨年と同様のスタイルにすることで、何のポスターかわかりやすかったといえる。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・人目につきやすい場所にポスターを掲示した点 ・ホームページへの誘導ができるよう工夫した点
改善が必要な点	_____

(3) メディア対応

プレスリリースを行った先は15ヶ所、そのうち記事や放映などの反応があったのは、中日新聞、岐阜新聞、東濃新報、である。

記者の反応は好評を得ており、その理由として実施に関する協定の調印式での記者発表だけでなく当日も取材されたことが挙げられる。しかもある程度大きい枠で掲載されたことは、メディアの関心の高さが伺われる。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・協定の調印式など開催前のメディアに対するアプローチができた点 ・基本的にオープンとし取材をOKにした点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・プレス対応の検討

5. たじみ市民討議会開催後の取り組み

ここでは、たじみ市民討議会開催後の取り組みとして、中間報告会、実施報告書の作成について述べる。なお、中間報告会や報告書の作成については、概ね評価できる内容となった。

(1) 中間報告会

たじみ市民討議会開催から1ヶ月後8月10日（水）、市民提言として提出する提言書の方向性を参加者に確認してもらう機会として中間報告会を開催した（中間報告会の参加者45人中4人出席）。中間報告会では、話し合いの結果を分析してまとめたものを中間報告書として参加者に提示した。分析結果の報告とともに、分析の方法とルールを明確にしておくことが大切であると考えている。なお、分析結果を説明し、質疑を行った上で提言書の内容が参加者に了承された。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの結果を分析し、その内容を中間報告会で参加者に確認していただいたことで、分析の客観性が高まった点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の把握の検討（電話連絡は行った）

(2) 実施報告書

たじみ市民討議会の実施報告書の構成については、(社)多治見青年会議所において、早い段階から検討されていたが、「話し合いの結果」と「手法の効果の検証・評価」を含め編集することとした。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等の資料を使って客観的に分析ができた点
改善が必要な点	_____

第4章 展望

2011年6月18日・19日に開催した「Heart of Tajimiーたじみ市民討議会2011ー」は、参加予定人数45人に対して参加承諾者は59人であった。当日は参加者の都合等により、45人で実施された。各テーマに対し、参加者が多面的にとらえていただき、行政に求める問題と、自分たち地域の問題とを区別し、意見をまとめていったことである。「市民主体にまちづくり」実現にこの手法が有効であると実証されたことから、今後も継続していかなければならない行政に対する「市民参加」の機会であると感じた。

完全無作為抽出による「市民討議会」の今後の可能性については幅広く期待できるが、今回は～支えあうまち 高め合うタジミストの絆～をテーマに実施した。

第3章の検証と評価でもあるように、この手法は無作為抽出にも関わらず、質の高い提案をまとめることが実証された。このことから多様な行政課題をテーマに今後の展開をしていくことができるだろう。

行政に任せてしまうのではなく、自分たちも何ができるのだろう、何かできることはないかという、観点からテーマを模索したが、今までの市民討議会を行ってきたテーマに対しての明確な方向性が導き出せるような「判断型」の開催も考えていくべきである。

1,000通の参加依頼に対し59人の参加承諾を得た上に参加者の満足度が高く、再度参加しても良いと答えた市民が89%と高いことから継続して行うことが可能である。そして参加者は「自分たちのまちは自分たちでつくる」という自ら進んで行動したいという気概を感じることができ、広域的な視点からまちづくりへの参加意識が高まったことから、継続的に実施することにより、まちづくりに新たな市民主体の可能性をもたらすことが期待できる。また、多治見市全体ではなく各地域で開催することも有効であると考えます。各地域で解決できない問題などについても広域開催をすることで、お互いのまち同志を助け合う心の醸成や、共栄共存のまちづくりが生まれると考えます。

今後は、市の基本計画の策定や改定作業などでこの手法を組み入れるなどの可能性を検討するとともに、「自分たちのまちの課題は自分たちで解決していく」という自治の原則から、運営機関側でテーマ選定を行うだけでなく、話し合いのテーマを市民から事前に公募するなどの方法も検討していく必要がある。

次に運営機関のあり方については、今回は(社)多治見青年会議所と多治見市と実行委員会が運営に参加したことで市民主体の市民討議会に一步、近づいたといえる。市民主体の参加機会にしていく「市民討議会」は、運営においても多くの市民に関わることが望ましいといえる。

最後にこの新たな市民参加の機会を継続的かつ発展的に実施し、多治見市における市民自治による協働のまちづくりが推進されることを切に願います。

Ⅱ. 今後の取り組みに関する情報提供

(社)多治見青年会議所は、多治見市へ「Heart of Tajimiーたじみ市民討議会2011ー」の報告書を提出した後も、参加者をはじめ、市民や関係者に対し、多治見青年会議所ホームページや多治見市のホームページなどにより、その取り組み状況について情報提供を行う。

- (社)多治見青年会議所の所在地とホームページ

<http://tajimijc.com/>

〒507-0831 多治見市新町1丁目23番地産業文化センター4F

TEL 0572-(23)-5229 FAX 0572-(24)-0227

- 多治見市役所秘書広報課の所在地とホームページ

his yokoho@city.tajimi.gifu.jp

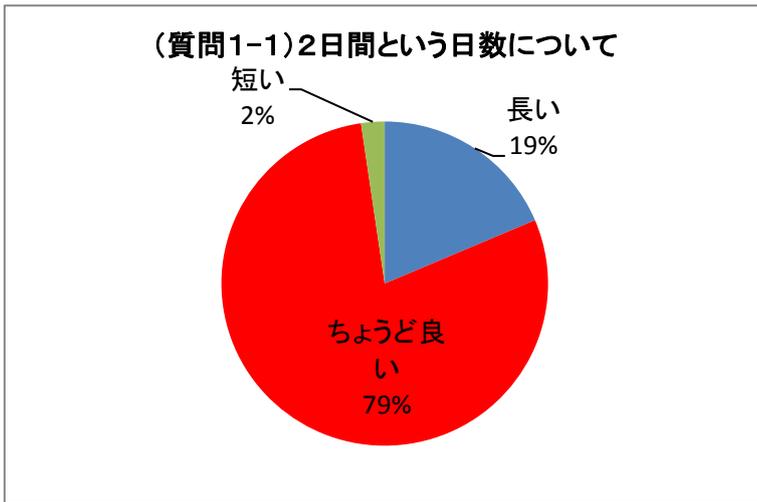
〒507-8703 多治見市日ノ出町2-15

TEL 0572-(22)-1111 FAX 0572-(24)-3679

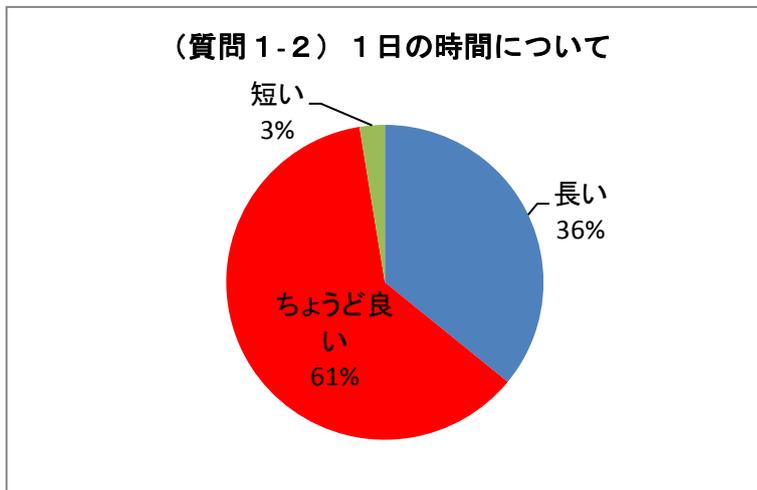
土・日曜休業

【市民討議会アンケート結果】

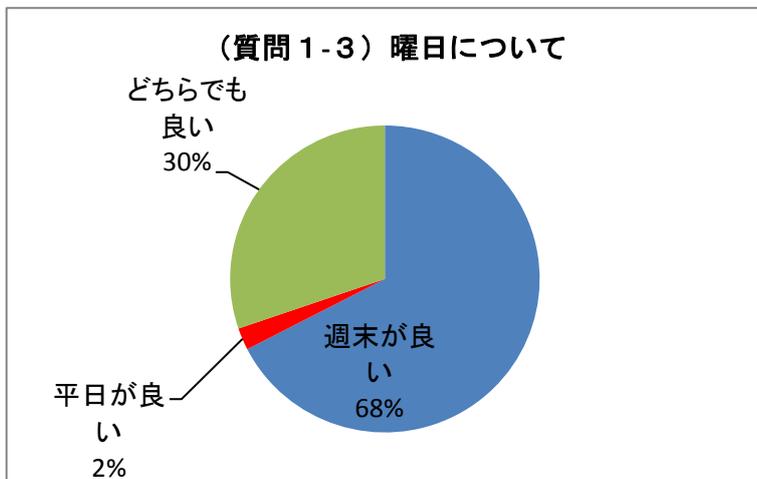
1.開催日程についてお聞かせ下さい



長い	ちょうど良い	短い
8	34	1

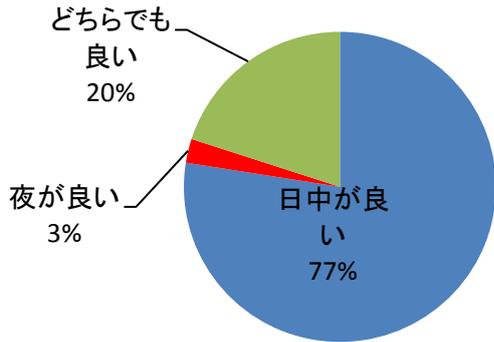


長い	ちょうど良い	短い
14	24	1



週末が良い	平日が良い	どちらでも良い
29	1	13

(質問 1-4) 時間帯について

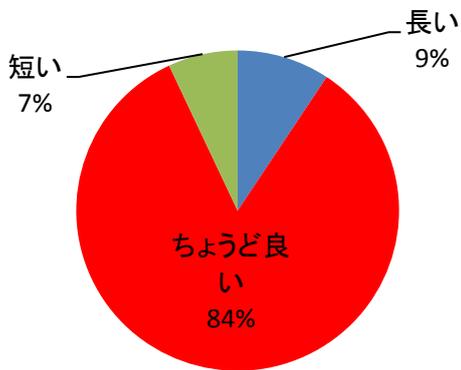


日中が良い	夜が良い	どちらでも良い
31	1	8

※回答なし3答

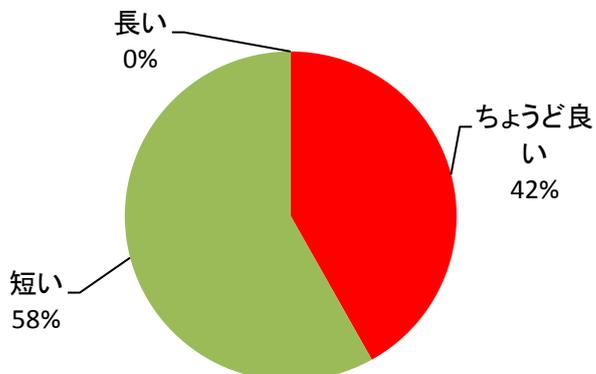
2、討議内容についてお聞かせ下さい

(質問 2-1) 情報提供について、時間の長さはどのようにお感じになりましたか



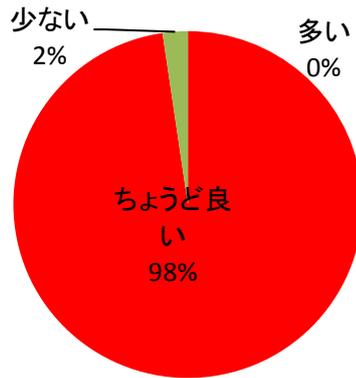
長い	ちょうど良い	短い
4	36	3

(質問 2-2) 討議について、時間の長さはどのようにお感じになりましたか



長い	ちょうど良い	短い
0	18	25

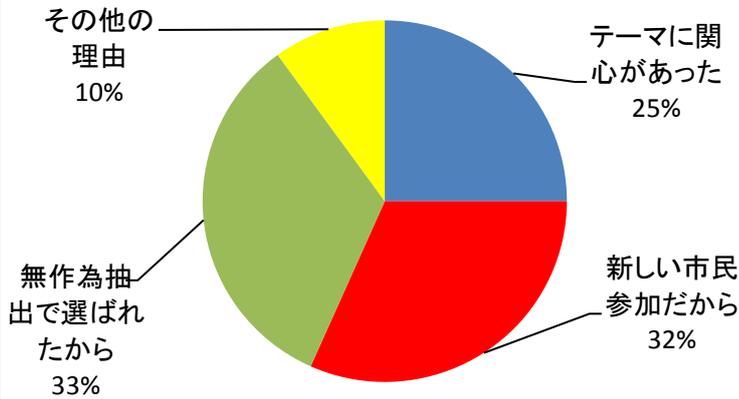
(質問2-3) 討議グループについて、
1グループの人数はどのように感じましたか



多い	ちょうど良い	少ない
0	42	1

3、参加動機についてお聞かせ下さい

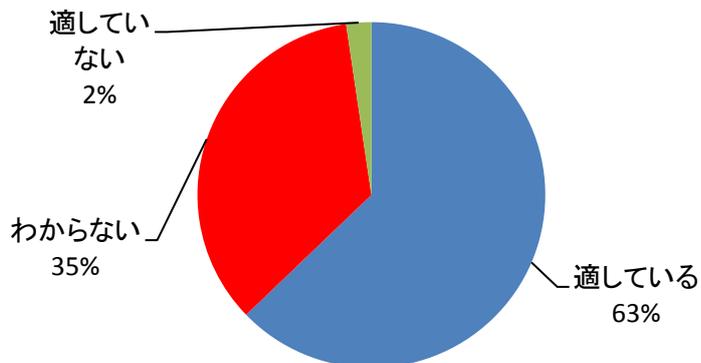
参加動機についてお聞かせ下さい



テーマに関心があった	15
新しい市民参加だから	19
無作為抽出で選ばれたから	20
その他の理由	6

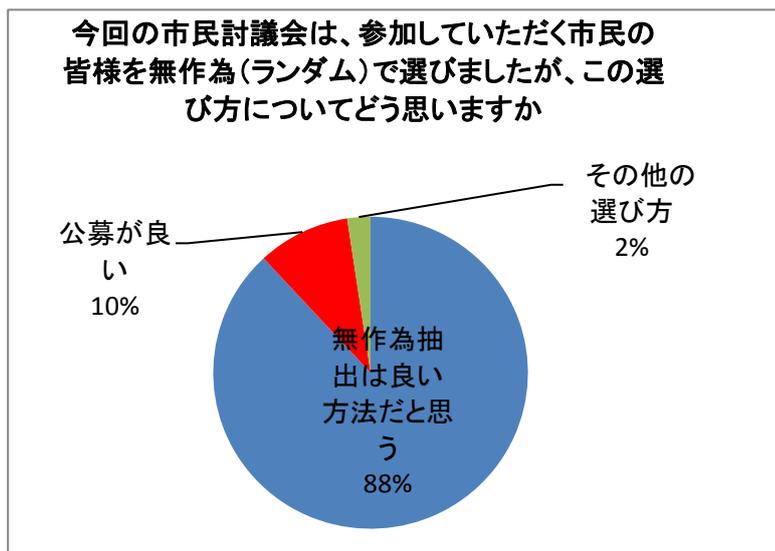
4、この市民討議会は、市民の声を行政に届ける手法として適していると思いますか

この市民討議会は、市民お声を行政に届ける手法として適していると思いますか



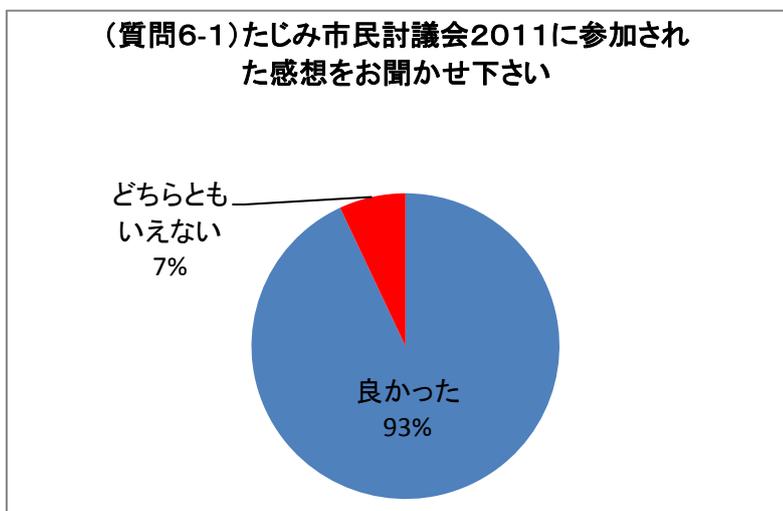
適している	わからない
27	15
適していない	その他
1	0

5、今回の市民討議会は、参加して頂く市民の皆様を無作為(ランダム)で選びましたが、この選び方についてどう思いましたか

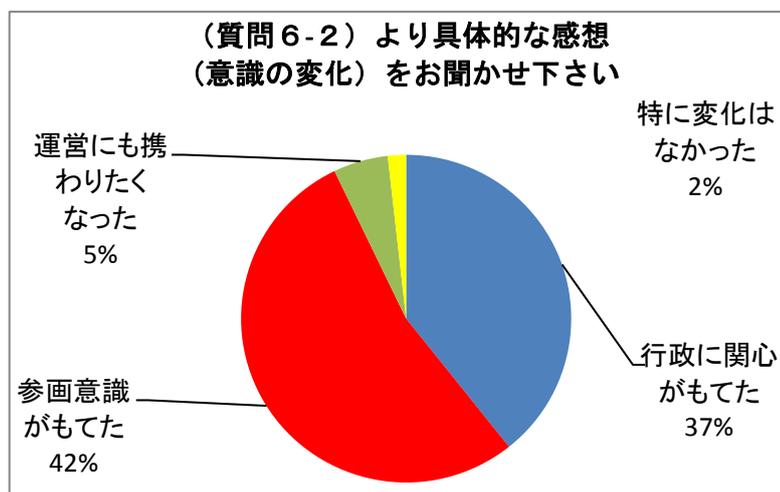


無作為抽出は良い方法だと思う	37
公募が良い	4
その他の選び方	2

6、たじみ市民討議会2011に参加された感想をお聞かせ下さい

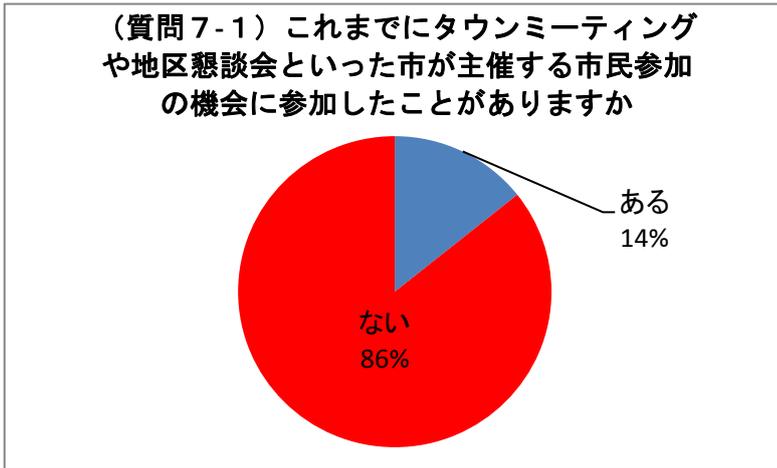


良かった	どちらともいえない	よくなかった
40	3	0



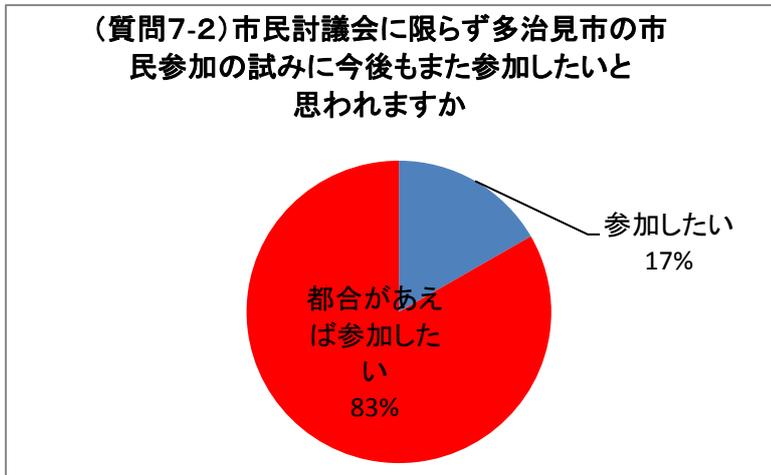
行政に関心がもてた	22
参画意識がもてた	30
運営にも携わりたくなった	3
特に変化はなかった	1

7、これまでにタウンミーティングや地区懇談会といった市が主催する市民参加の機会に参加したことがありますか



ある	6	ない	36
----	---	----	----

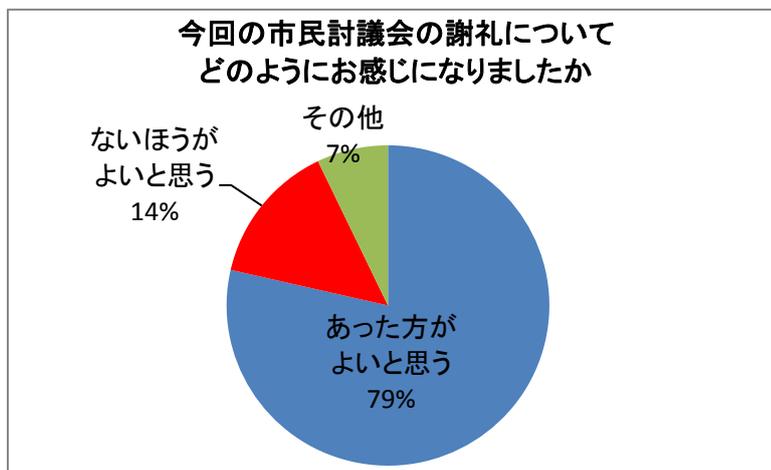
※回答なし1答



参加したい	7
都合があれば参加したい	35
参加したくない	0

※回答なし1答

8、今回の市民討議会の謝礼についてどのようにお感じになりましたか



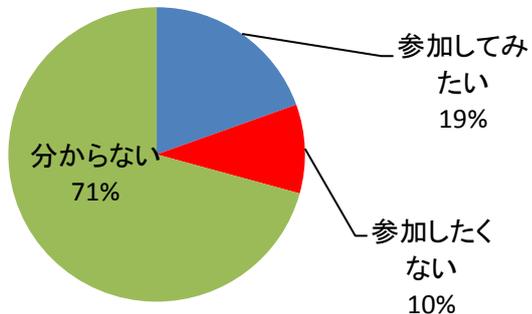
あった方がよいと思う	33
ないほうがよいと思う	6
その他	3

※回答なし1答

10、今後、この市民討議会を開催していく上で、今回参加して頂いた市民の皆様にはスタッフとしてお手伝い頂きたいと考えております。スタッフとして参加してみたいですか

今後、この市民討議会を開催していく上で、今回参加していただいた市民の皆様にはスタッフとしてお手伝い頂きたいと考えております。スタッフとして参加してみたいですか

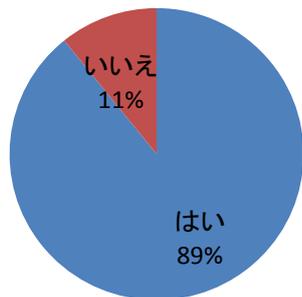
参加してみたい	参加したくない	分からない
8	4	29



11、多治見青年会議所・多治見市が主催する、まちづくりに関する事業などの案内を送付させて頂いてもよろしいですか？

多治見青年会議所・多治見市が主催する、まちづくりに関する事業などの案内を送付させて頂いてもよろしいですか？

はい	いいえ
33	4



Heart of Tajimi たじみ市民討議会2011

調印式



受付風景



主催者挨拶



実行委員長挨拶



情報提供 テーマ1



情報提供 テーマ2



情報提供 テーマ3



情報提供 テーマ4



討議中 1日目



討議中 2日目



付箋記入



発表



発表



投票



参加者発表



中間報告会



参考文献

● プラークンクツェレノメルクマールとその評価

(篠藤明徳、別府大学短期大学部紀要第19号、2000年)

● ドイツの市町村におけるプラークンクツェレの実施

—メアブッシュ市(都市開発)とノイス市(中心市街地)の事例—

(篠藤明徳、別府大学短期大学部紀要第43号、2001年)

● ドイツの市民参加「プラークンクツェレ」の進展

(篠藤明徳、日経グローバルNo12、2004年)

● プラークンクツェレ—熟慮デモクラシー論の実践的アプローチ—

(後藤潤平、早稲田政治公法研究第76号、2004年)

● 「まちづくりと新しい市民参加—ドイツのプラークンクツェレの手法—」

(篠藤明徳、イマジン出版、2006年)

● 「自治を担う議会改革—住民と歩む協働型議会の実現—」

(江藤俊昭、イマジン出版、2006年)

● 「無作為抽出市民による討議に関する質問票調査

—日本における討議民主主義の実証研究—」

(井出弘子、日本政治学会発表、2008年)

● 「ドイツにおける公共政策への市民参加の手続き的公正さについて—レンゲリッヒ市とバイエルン州におけるプラークンクツェレの社会調査研究—」

(広瀬幸雄他、環境心理研究9、2009年)